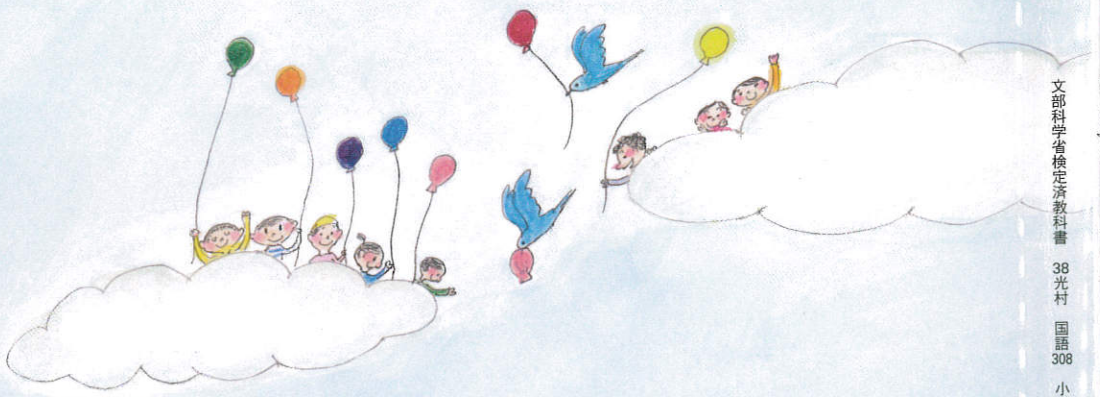


# 国語

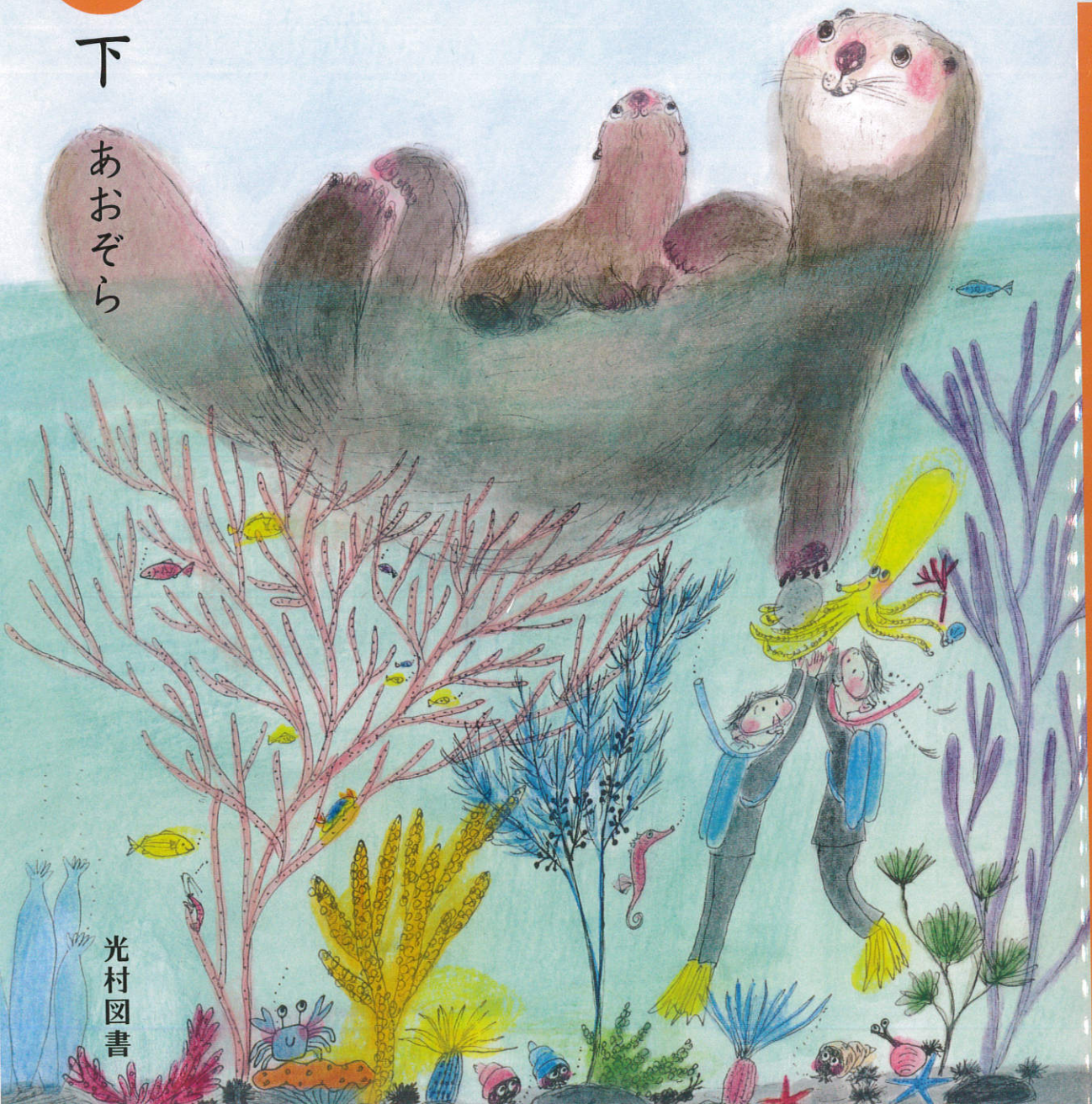
三

下

あおぞら



文部科学省検定教科書 38 光村 国語 308 小学校国語科用



光村図書





## この本で学習するみなさんへ

この本では、次のしるしが使われています。



話したり聞いたりしましょう。



書きましょう。



読みましょう。



言葉の学習をしましょう。



おぼえておきましょう。他の学習  
や生活の中でも役に立ちます。



国語の学習に用いる言葉をたしか  
めましょう。



学習を進めるときに気をつけるこ  
となどをまとめています。



音声を聞いて、学習しましょう。



学習に関係のあるページをしめし  
ています。

文字や言葉のしるし

○ 新しく学習する漢字。

● 読み方が新しい漢字。

音はかたかなで、訓は平  
がなでしめしてあります。

◆ とくべつな読み方を  
する言葉。



このしるしがあるところに  
は、学習の助けとなるし  
りようがあります。読み取  
るときには、かならず、先  
生やおうちの方といっしょ  
に行いましょう。



# 国語

三

下

あおぞら



空がまぶしい、

このわたしの上に。

あそこの牛の上に。

あの山の上で生きている

一本松まつの上に。

みんなおんなじに

青く青くすんで……。





# 目次

三年生の国語の学びを見わたそう……………4

◆ **じょうほう** 分ける・くらべる……………9

つづけてみよう……………10

1 場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう **読む**

ちいちゃんのかげおくり あまんきみこ……………11

言葉 **修飾語**を使って書こう……………29

はんで意見をまとめよう **話す・聞く**……………34

2 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう **読む 書く**

すがたをかえる大豆 国分牧衛……………41

◆ **じょうほう** 科学読み物での調べ方……………50

食べ物のひみつを教えます……………51

ことわざ・**故事成語**……………56

言葉 **漢字の意味**……………60

短歌を楽しもう……………62

3 組み立てをとらえて、**民話**をしようかいしよう **読む**

三年とうげ 李錦玉……………65







たから島のぼうけん

書く

81



詩の楽しみ方を見つけよう 読む  
詩のくふうを楽しもう

88

カンジーはかせの音訓かるた

92



④ 読んで感想をもち、つたえ合おう 読む  
ありの行列

大滝 哲也

読む

95

つたわる言葉で表そう

105



これがわたしのお気に入り

書く

109

言葉 コンピュータのローマ字入力

115



わたしたちの学校じまん

話す・聞く

116

⑤ 登場人物について、話し合おう 読む

モチモチの木

斎藤 隆介

121

きせつの言葉 秋 32 冬 86

漢字の広場

④ 40

⑤ 64

⑥ 94

ひろく 学習を広げよう

「たいせつ」のまとめ

138

インタビュー 知りたいことをきく

142

本の世界を広げよう

144

知ると楽しい「故事成語」

146

これまでに習った漢字

148

この本で習う漢字

153

言葉のたから箱

157





三年生の

# 国語の学びを 見わたそう

国語の学習で、みんなで考え、学びを深めていくために、学習の進め方と、これから学ぶことをたしかめましょう。

## 学習の進め方

### はじめに

「こんなことがしたい。」  
「こうすればできそう。」  
「どうして——だろう。」



読む

書く

話す・聞く



### ふりかえる

「考えがかわった。」  
「知っている言葉がふえた。」  
「次はこんなふうにしてみよう。」



### 学習や生活にいかす

「——のときに、  
いかすことができそう。」  
「この言葉を使ってみよう。」





これから学ぶことをたしかめたり、学習したことを  
ふり返ったりして、言葉の力を高めていきましょう。

はんで意見をまとめよう…………… 34

📖 役わりにおうじて話し合う 司会

わたしたちの学校じまん…………… 116

📖 相手や目的を考え、理由をあげて話す



よく聞いて、じこしようかい  
もっと知りたい、友だちのこと  
📖 話を聞いて、しつもんする  
山小屋で三日間すごすなら

上



三年上までの学びをたしかめよう

📌 決める 集める  
つたえたいことを、「いつ」「どこ」「だれ」「何」に気をつけて、くわしく思い出す。

📌 じゅんび する  
「はじめ」「中」「終わり」など、話のじゅんじょを考える。

📌 話す  
話さないようや相手に合わせて、声の大きさや速さ<sup>はや</sup>をくふうする。

📌 話す  
話す人の方を見ながら聞く。

📌 話す  
自分が知りたいことをはっきりさせ、どうしつもんするとよいかを考える。

📌 話し合う  
友だちの話につなげて話す。  
自分の考えを話すときは、理由を言う。  
話したり聞いたり話し合ったりして、気がついたことをつたえ合う。

📌 つなげる  
つなげる

📌 話す・聞く  
話す・聞く

食べ物のひみつを教えます…………… 51

📖 れいをあげて書く

たから島のぼうけん…………… 81

📖 物語の組み立てを考えて書く

これがわたしのお気に入り…………… 109

📖 感想をつたえ合う

📖 気持ちをこめて「来てください」

📖 あんないの手紙を書く

📖 仕事のくふう、見つけたよ

📖 組み立てを考えて、  
ほうこくする文章を書く

上

句読点

三年上までの学びをたしかめよう

📌 決める 集める  
見たり聞いたり思い出したりして、書くことを決める。

📌 決める 集める  
書くもの、短い言葉や文でメモし、書きたいことをはっきりさせる。

📌 決める 集める  
つたえたいことを、ないようのまとめりごとに分ける。

📌 決める 集める  
「はじめ」「中」「終わり」のまとめりに組み立てる。

📌 決める 集める  
分かったことと考えたことを分けて書く。

📌 決める 集める  
読む人につたわるように、くわしく書いたり、絵や写真を使ったりする。

📌 決める 集める  
書いたものを読み返し、まちがいや読みにくいところを直す。

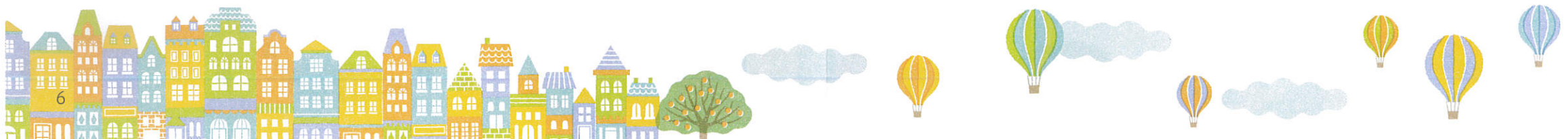
📌 決める 集める  
読み合って、思ったことなどをつたえる。  
自分の文章のよいところを見つける。

📌 つなげる  
つなげる

📌 書く  
書く

📌 組み立てる  
組み立てる

📌 決める 集める  
決める 集める





せつめいする文章

すがたをかえる大豆 ..... 41

☞ 話題と、れの書かれ方をとらえる

ありの行列 ..... 95

☞ せつめいする文章を読んで、感想をつたえ合う

言葉で遊ぼう

こまを楽しむ

上

☞ 段落とその中心をとらえる

段落 問い

ポスターを読もう

キャッチコピー

物語・詩

ちいちゃんのかげおくり ..... 11

☞ 物語に対する感想をもつ

会話文・地の文

三年とうげ ..... 65

☞ 組み立てをとらえる

詩のくふうを楽しもう ..... 88

モチモチの木 ..... 121

☞ 登場人物のせいかくをとらえる

語り手

どきん

きつつきの商売

上

☞ 場面のようなすや、登場人物の気もちを

場面

まいごのかぎ

☞ 登場人物のへんかに気をつけて読む

わたしと小鳥とすずと  
夕日がせなかをおしてくる

連

言葉の使い方

修飾語を使って書こう ..... 29

上

漢字の意味 ..... 60

カンジーはかせの

音訓かるた ..... 92

つたわる言葉で表そう ..... 105

コンピュータの

ローマ字入力 ..... 115

漢字の広場④⑥

漢字の広場①③

分ける・くらべる ..... 9

科学読み物での

調べ方 ..... 50

分ける・くらべる

全体と中心

引用するとき

じょうほう

奥付

引用

三年上までの学びをたしかめよう

せつめいする文章

文章は、「はじめ」

「中」「終わり」な

どの大きなまとま

りに分けられる。

☞ 一つの段落には、

ひとまとまりのな

いようが書かれる。

物語・詩

登場人物のしたこ

とや言ったことに

気をつける。

☞ 題名やさし絵を手

がかりにする。

せつめいする文章

大事な言葉や文が

何かを考える。

☞ したいことに合う

ように、文章の言

葉をえらんでまと

める。

物語・詩

まわりの様子や、

登場人物がしたこ

とを、そうぞうす

☞ 登場人物が、どう

してそのことを

言ったりしたりし

たかを考える。

ひろげる

☞ 感じたことや思ったことをつたえ合い、友だちとちがいがあことに気づく。

まとめる

☞ 書かれていることと、自分の知っていることなどをつなげて、感想や考えをまとめる。

ふかめる

☞ 大事な言葉や文が何かを考える。

とらえる

☞ 一つの段落には、ひとまとまりのな



受けつがれる言葉

ことわざ・

故事成語 ..... 56

短歌を楽しもう ..... 62

きせつの言葉

秋・冬

俳句を楽しもう

きせつの言葉 春・夏

読書

上

図書館

たんでいだん

☞ 図鑑や科学

読み物を読む

鳥になった

きょうりゅうの話







考えるときに使おう

# 分ける・くらべる

## 分ける

なかま分けしたときは、次のような言葉で、分かりやすくつたえることができます。

- —は、—のなかまです。
- —は、三つのなかまに分けることができます。

同じ物事でも、分け方は一つではありません。どんな見方で分けたかをつたえましょう。

わたしは、学校でかっている生き物を、世話の回数という点から分けてみました。



「はんで意見をまとめよう」

38ページ

5

## くらべる

くらべたときは、次のような言葉で、分かりやすくつたえることができます。

- —と—をくらべてみると、—。
- —というところは同じですが、—というところがちがいます。

物事は、いろいろな点からくらべることができることができます。どんな点でくらべたのかをつたえましょう。

ごはんとパンを、調理のしやすさという点でくらべてみました。



「ちいちゃんのかげおくり」

26ページ

10

つづけてみよう

## 日記を読み返そう

日記をつづけて書いていると、自分がどんなことにきょうみがあるのかが、よく分かります。書いたものを、ときどき読み返してみましよう。

また、「友だちにも知ってもらいたいな。」と思う日の日記をえらんで、友だちに読んでもらいましょう。読んだ人は、感想をふせんに書いて、はってでもいいですね。

10

5

### ■感想のれい

山村さんが、さかあがりの練習をしているところを、ぼくも見っていたよ。できるようになってよかったね。

ぼくは、友だちと遊んだときのことをよく書いている。

わたしの日記には、きゅうしよくのことがよく出てくるよ。



5





読む

場面をくらべながら読み、  
感じたことをまとめよう

# ちいちゃんのかげおくり

1

「かげおくり」という遊びを知っていますか。  
「ちいちゃん」にとって、それはどんな遊び  
なのでしょう。そして、「ちいちゃん」には、  
どんなことが起こるのでしょう。



これまでの学習



場面のようすや、登場人物の気もちをそうぞうする  
(きつつきの商売) …………… 上 28 ページ

登場人物のへんかに気をつけて読む

(まいごのかぎ) …………… 上 84 ページ

# ちいちゃんのかげおくり

あまん きみこ 作

上野 紀子 絵

「かげおくり」って遊びをちいちゃんに教えてくれたのは、お父さんでした。

出征する前の日、お父さんは、ちいちゃん、お兄ちゃん、お母さんをつれて、先祖のはかまいりに行きました。その帰り道、青い空を見上げたお父さんが、つぶやきました。

「かげおくりのよくてきそうな空だなあ。」

「えっ、かげおくり。」

と、お兄ちゃんがきき返しました。

5

○起おこる

●出シユツ征

出征

へいたいになって、  
ぐんたいに入り、い  
くさ(せんそう)に  
行くこと。

◆お父とうさん

◆お兄にいちゃん



「かげおくりって、なあに。」

と、ちいちゃんもたずねました。

「<sup>とお</sup>十、数える間、かげぼうしをじっと見つめるのさ。十、と言ったら、空を見上げる。すると、かげぼうしがそっくり空にうつって見える。」

と、お父さんがせつめいしました。

「父さんや母さんが子どものときに、よく遊んだものさ。」

「ね。今、みんなで作ってみましょうよ。」

と、お母さんが横から言いました。

ちいちゃんとお兄ちゃんを中にして、四人は

10

5



手をつなぎました。そして、みんなで、かげぼうしに目を落としました。

「まばたきしちや、だめよ。」

と、お母さんがちゅういしました。

「まばたきしないよ。」

ちいちゃんとお兄ちゃんが、やくそくしました。

「ひとうつ、ふたあつ、みいっつ。」

と、お父さんが数えだしました。

「ようっつ、いつうつ、むうっつ。」

と、お母さんの声もかさなりました。

「ななあつ、やあっつ、ここのうつ。」

ちいちゃんとお兄ちゃんも、いっしょに数えだしました。







「とお。」

目の動きといっしょに、白い四つのかげぼうしが、すうっと空に上がりました。

「すごうい。」

と、お兄ちゃんが言いました。

「すごうい。」

と、ちいちゃんも言いました。

「今日の記念写真ねんだなあ。」

と、お父さんが言いました。

「大きな記念写真なこと。」

と、お母さんが言いました。

次の日、お父さんは、白いたすきをかたから

ななめにかけて、日の丸のはたに送られて、列車に乗りました。

「体の弱いお父さんまで、いくさに行かなければならないなんて。」

お母さんがぼつんと言ったのが、ちいちゃんの耳には聞こえました。

ちいちゃんとお兄ちゃんは、かげおくりをして遊ぶようになりました。ばんざいをしたかげおくり。かた手をあげたかげおくり。足を開いたかげおくり。いろいろなかげを空に送りました。

けれど、いくさがはげしくなって、かげおくりなどできなくなりました。この町の空にも、しょういだんやばくだんをつんだひこうきが、とんでくるようになりました。そうです。広い空は、楽しい所ではなく、とてもこわい所にかわりました。

夏のはじめのある夜、くうしゅうけいほうのサイレンで、ちいちゃん

10

5

○乗<sup>レ</sup>る  
○列<sup>レ</sup>車

しょういだん

たてものをやきはらうために作られたばくだん。



くうしゅうけいほう

てきのひこうきによるこうげきを知らせる合図。



たちは目がさめました。

「さあ、急いで。」

お母さんの声。

外に出ると、もう、赤い火が、あちこちに上がっていました。

お母さんは、ちいちゃんとお兄ちゃんを両手につないで、走りました。

風の強い日でした。

「こっちに火が回るぞ。」

「川の方ににげるんだ。」

だれかがさけんでいます。

風があつくなくなってきました。ほのおの

うずが追いかけてきます。お母さんは、

ちいちゃんをだき上げて走りました。

○急ぐ<sup>いそ</sup>

○追いかける<sup>お</sup>

「お兄ちゃん、はぐれちゃだめよ。」

お兄ちゃんがころびました。足から血が出ています。ひどいけがです。お母さんは、お兄ちゃんをおんぶしました。

「さあ、ちいちゃん、母さんとしっかり走るのよ。」

けれど、たくさんの人に追いつけなかったり、ぶつかったり——、ちい

ちゃんは、お母さんとはぐれました。

「お母ちゃん、お母ちゃん。」

ちいちゃんはさけびました。

そのとき、知らないおじさんが言いました。

「お母ちゃんは、後から来るよ。」

そのおじさんは、ちいちゃんをだいて走ってくれました。



暗い橋の下に、たくさんの人が集まっています。ちいちゃんの人に、お母さんらしい人が見えました。

「お母ちゃん。」

と、ちいちゃんがさけぶと、おじさんは、

「見つかったかい。よかった、よかった。」

と下ろしてくれました。

でも、その人は、お母さんではありませんでした。

ちいちゃんは、ひとりぼっちになりました。ちいちゃんは、たくさんの人たちの中でねむりました。

朝になりました。町の様子は、すっかりかわっています。あちこち、けむりがのこっています。どこがうちなのか――。



「ちいちゃんじゃないの。」

という声。ふり向くと、はず向かいのうちのおばさんが立っています。

「お母ちゃんは。お兄ちゃんは。」

と、おばさんがたずねました。ちいちゃんは、なくのをやっところえ  
て言いました。

「おうちのところ。」

「そう、おうちにもどっているのね。おばちゃん、今から帰るところよ。  
いっしょに行きましょうか。」

おばさんは、ちいちゃんの手をつないでくれました。二人は歩きだ  
しました。

家は、やけ落ちてなくなっていました。

「ここがお兄ちゃんとあたしの部屋。」

10

5

ぎつう

いろいろな物を入れ  
てかたにかける、ぬ  
ので作ったかばん。

ほしい

ごはんをほしてかわ  
かした食べ物。

ぼくうこう

ぼくなどから身  
をまもるためにほつ  
た、大きなあな。

◆部屋



ちいちゃんがしゃがんでみると、おばさんがやって来て言いました。

「お母ちゃんたち、ここに帰ってくるの。」

ちいちゃんは、深くうなずきました。

「じゃあ、だいじょうぶね。あのね、おばちゃんは、

今から、おばちゃんのお父さんのうちに行くからね。」

ちいちゃんは、また深くうなずきました。

その夜、ちいちゃんは、ざつのうの中に入れてあるほしいいを、少し食べました。そして、こわれかけた暗いぼうくうごうの中で、ねおりました。

「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ。」

くもった朝が来て、昼がすぎ、また、暗い夜が来ま



した。ちいちゃんは、ぎつのうの中のほしいいを、また少しかじりました。そして、こわれかかったぼうくうごうの中でねむりました。

明るい光が顔に当たって、目がさめました。

「まぶしいな。」

ちいちゃんは、暑いような寒いような気がしました。ひどくのどがかわいています。いつのまにか、太陽は、高く上がっていました。

そのとき、

「かげおくりのよくてきそうな空だなあ。」

というお父さんの声が、青い空からふってきました。

「ね。今、みんなでやってみましょうよ。」

というお母さんの声も、青い空からふってきました。

10

5

○寒いさむい ○暑いあつい





ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がると、たった一つのかげぼうしを見つめながら、数えだしました。

「ひとつつ、ふたあつ、みいつつ。」

いつのまにか、お父さんのひくい声がかさなって聞こえだしました。

「ようつつ、いつうつ、むうつつ。」

お母さんの高い声も、それにかさなって聞こえだしました。

「ななあつ、やあつつ、ここのうつつ。」

お兄ちゃんのわらいそうな声も、

かさなってきました。

「とお。」

ちいちゃんが空を見上げると、青い空に、くっきりと白いかげが四つ。

「お父ちゃん。」

ちいちゃんはよびました。

「お母ちゃん、お兄ちゃん。」

そのとき、体がすうっとすきとおって、空にすいこまれていくのが分かりました。

一面の空の色。ちいちゃんは、空色の花ばたけの中に立っていました。見回しても、見回しても、見回しても、花ばたけ。

「きつと、ここ、空の上よ。」

と、ちいちゃんは思いました。

「ああ、あたし、おなかがすいて軽くなつたから、ういたのね。」

10

5

○軽<sup>かる</sup>  
い

そのとき、向こうから、お父さんとお母さんとお兄ちゃんが、わら  
いながら歩いてくるのが見えました。

「なあんだ。みんな、こんな所にいたから、来なかったのね。」

ちいちゃんは、きらきらわらいだしました。わらいながら、花ばたけ  
の中を走りだしました。

夏のはじめのある朝、こうして、小さな女の子の命が、空にきえま  
した。

それから何十年。町には、前よりもいっぱい家がたっています。ちい  
ちゃんが一人でかけおくりをした所は、小さな公園になっています。

青い空の下、今日も、お兄ちゃんやちいちゃんぐらいの子どもたち  
が、きらきらわらい声を上げて、遊んでいます。

命いのち

あまん きみこ

一九三一年、中  
国に生まれる。作家。

「車のいろは空のい  
ろ」「おにたのぼう  
し」などの作品が  
ある。





見通しをもとう

## 場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう

- 動作を表す言葉や、様子を表す言葉に気をつけましょう。
- 場面の様子や出来事をくらべて読み、感じたことをまとめましょう。

🌱 会話文・地の文

かぎ（「」）でしめしている人物の言葉を会話文、ほかのところを地の文という。

📖 159ページ

### とらえよう

● この物語は、一行空きによって場面が分かれていきます。第一場面と第四場面の「かげおくり」の様子をくらべましょう。同じところはありますか。ちがうところはどこでしょう。

1

● 二つの「かげおくり」の間には、どんな出来事があったでしょう。その間に、「ちいちゃん」のまわりからうしなわれていったものは、何でしょう。

2

### ふかめよう

- 第四場面の「かげおくり」について考えましょう。
- 「ちいちゃん」の気持ち。
- 読み手である、あなたの気持ち。

10

#### 1 くらべる

「分ける・くらべる」

📖 9ページ

二つの場面の、次のようなことをくらべましょう。

- 時と場所
- 登場人物
- 会話文と、その前後の地の文

#### 2 言葉

次のような言葉の使われ方に気をつけましょう。人物のしたことや気持ち、まわりの様子をそうぞうする手がかりになります。

- 「言う」「つぶやく」「きき返す」のように、にている動作でも、様子や気持ちにちがいのある言葉
- それぞれの場面に出てくる場所の様子を表す言葉

10

5



## ふりがえろう

- 知る
- 読む
- つなぐ

場面の様子をそうぞうするとき、どのような言葉に気をつけましたか。  
 くわしく読むことで、この物語に対する考えは、はじめとどうかわりましたか。  
 感じたことを文章にまとめてよかったと思うのは、どんなことですか。

動作<sup>サ</sup>  
 第一場面<sup>ダイ</sup>

## ひろげよう

● 友だちと読み合い、自分の感じ方とにているところや、ちがうところをつたえ合ひましょう。友だちの文章を読んで、あなたの考えがかわったところはありますか。

## まとめよう

● 第五場面があるのとないののでは、どちらがいますか。第四場面までとくらべたり、第四場面にあるにた表現<sup>げん</sup>を見つけたりして考えましょう。

● 「ちいちゃんのかげおくり」を読んで感じたことを、理由とともに文章にまとめましょう。

3

5

## 3 まとめ方のれい

わたしは、「ちいちゃんのかげおくり」は、

〈自分が感じていることを短い言葉で表す。〉

- ・ 切ない
- ・ 悲しい
- ・ 温かい など

物語だと感じました。

その理由は、――

〈物語のどこからそう感じるのかを、くわしく書く。〉

- ・ 物語の中の言葉や場面
- ・ 人物の行動や会話、気持ち
- ・ 人物やまわりの様子のうつりかわり など

「言葉のたから箱」<sup>ワ</sup>

157ページ



たいせつ

物語に対する感想をもつ

●場面と場面をくらべて、人物の様子や出来事のちがいと、その理由について考える。

●物語をだれの立場から読み、出来事をどうとらえるかによって、物語に対する感想はちがってくる。



物語の感想をつたえるときは、理由も明らかにしましょう。

10

5

この本、読もう

せんそうがあつたころの物語です。様子をそうぞうしながら読んでみましょう。



おかあさんの木  
せんそう中もその後も、たくさん  
の人がぎずつき、くるしみました。



かわいそうなぞう  
せんそうのくるしみは、人間だけでは  
なく、何も知らない動物園のぞ  
うにもおそいかりました。

10



えんぴつびな  
くうしゅうで家をなくしたわたし  
に、シンペイちゃんは小さなおひな  
さまをくれました。でも次の日――。

5

起

キ  
おきる  
おこる  
おこす

寒

カン  
さむい

列

レイ

軽

ケイ  
かるい

乗

ジョウ  
のる  
のせる

命

メイ  
いのち

急

キウ  
いそぐ

第

ダイ

追

ツイ  
おう

血

ケツ  
ち

暗

アン  
くらい

橋

キョウ  
はし

暑

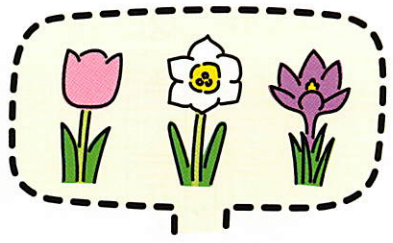
ショ  
あつい



言葉

しゅうしよく  
修飾語を使って書こう

花が、さきました。



どんな花がさいたんだったっけ。  
この文だけだと、よく分らないな。

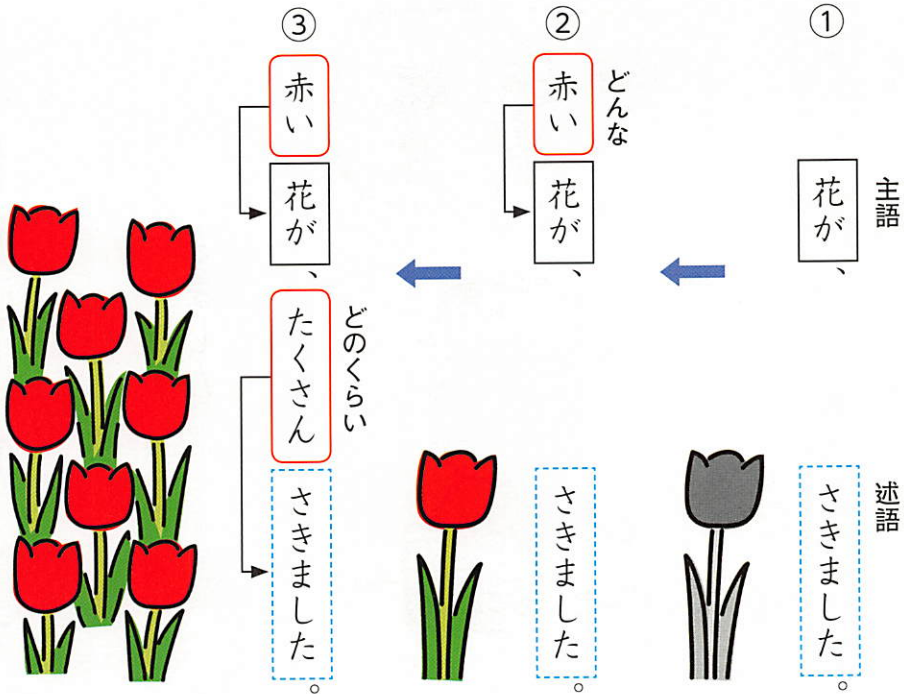


主語  
花が、  
述語  
さきました。

青山さんは、一年生のときに書いた日記を読み返しています。主語と述語のそろった一文ですが、どんな花だったのか、よく分かりません。花の様子をくわしく書くには、どうすればよいでしょうか。

文の中で、「何が(は)」「だれが(は)」に当たる言葉を主語、「どうした(どうする)」「どんなだ」「なんだ」に当たる言葉を述語といいます。

主語



上の三つの文では、同じ主語と述語が

使われています。そして、の

部分をつけ足すことで、文の意味が定

まって、だんだんと分かりやすい文に

なっています。の、「どんな」

「どのくらい」のように、文の意味をく

わしくする言葉を、修飾語といいます。

③の文で、「赤い」は、主語の「花が」

に、「たくさん」は、述語の「さきました」

に係って、それぞれの意味をくわしくし

ています。

▼③の文をもっとくわしくするとしたら、

どんな修飾語をくわえることができるで

しょうか。また、その修飾語は、どの言葉

に係るでしょうか。

1 次の [ ] の言葉は、どの言葉に係っているでしょうか。友だちと話しましょう。

わたしは、  
 きのう  
 九州の  
 おじいちゃんに  
 手紙を  
 書きました。

だれの  
 弟の  
 風船が、  
 屋根の  
 上を  
 ふわふわと  
 とぶ。

これらの、「いつ」「どこ」の「だれに」「何(どこ)」を「だれ(何)の」「どのように」に当たる言葉も、修飾語です。

2 次の文に修飾語をくわえて、文をくわしくしましょう。

- 水が、流れる。
- 荷物が、おもい。
- 山田君は、守った。
- かえるは、生き物だ。

3 下の写真の様子を、修飾語を使ってくわしく書きましょう。

「言葉のたから箱」  
 ↓  
 157 ページ



人と話したり、感想文などを書いたりするときに、修飾語を使って、つたえたいことが相手によく分かるようにしましょう。



- 九州
- 風船
- 屋根
- 流れる
- 荷物
- 山田君
- 守る

主 州 根 流 荷 君 守

ぬし シュ  
 おも  
 シユウ  
 コシ  
 リユウ  
 ながれる  
 ナ  
 シ  
 シユ

↓  
 153 ページ



# 秋のくらし

## 虫の声

(文部省 唱歌)

あれ松虫まつが 鳴ないている

ちんちろ ちんちろ ちんちろりん

あれ鈴虫すずも 鳴なき出した

りんりんりんりん りいんりん

秋の夜長を 鳴なき通とす

ああおもしろい 虫むしの声

生活の中で、秋らしさを感じることはありますか。身の回りで見つけた、秋を感じたものについて書きましよう。

きのうは、夕食に新米を食べました。こ  
としとれたお米だそうです。つやつやして  
いて、味は、いつも食べているお米よりも  
あまい気がしました。

◆「○○の秋」という言い方をすることがあります。

スポーツの秋



げいじゅつの秋



しよくよくの秋



新米あたらしくまい



月夜

虫の音

虫かご

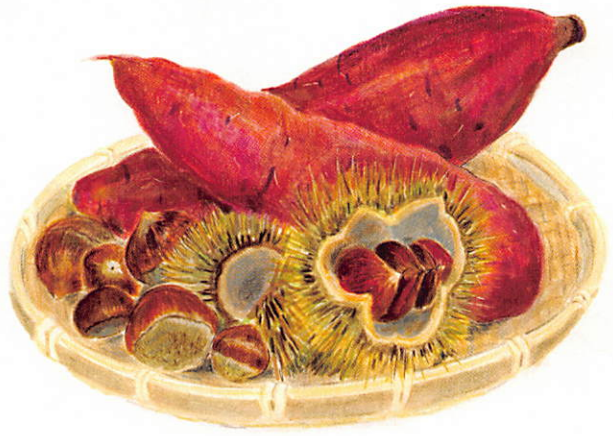
夜長



りんご

ぶどう

かき



くり

さつまいも

◆ 秋はしゅうかくのきせつといわれ、いろいろな食べ物が  
ゆたかに実ります。





話す・聞く

進行を考えながら話し合おう

# はんで意見をまとめよう

上田さんのクラスでは、一年生に絵本の読み聞かせをすることになりました。それぞれのはんで、読み聞かせをする本を一さつ決める話し合いをします。ここでは、意見をまとめる話し合いのしかたについて、考えてみましょう。



## ● たしかめよう

「三年上までの学びをたしかめよう」  
「山小屋で三日間すごすなら」  
↓ 5ページ  
↓ 上116ページ

## ● 学習の進め方

決めよう  
集めよう

1 目的と決めることをたしかめ、自分の考えをもつ。

じゅんぴしよう

2 役わりを決め、進め方をたしかめる。

話そう  
聞こう

3 はんで話し合う。

つなげよう

4 話し合いのしかたで、よかつたところをつたえ合う。

## ● ふりかえろう



**1** 目的と決めることをたしかめ、自分の考えをもとう。

目的

一年生が本をすきになってくれる  
ような、読み聞かせをする。

決めること

どの本を読むか。

自分の考えを、ふせんなどに書いておきましょう。

**2** 役わりを決め、進め方をたしかめよう。

話し合いの役わりには、司会やきろく係、時間を計る係などがあります。さんかする人全員が、どのように話し合いを進めていくかが分かるように、役わりと進め方をノートなどに書きましょう。

**3** はんで話し合おう。



役わりと進め方にそって話し合います。

次の話し合いの様子から、どんなことに気をつければよいかを考えましょう。

■ ノートのれい

〈役わり〉

- ・司会上田
- ・きろく森川
- ・時間高山

〈進め方〉

- ① 意見を出し合う。
- ② 決め方をたしかめる。
- ③ 決め方にそって話し合う。
- ④ 話し合いをまとめる。

進行

役わり

進め方

司会

話し合いを進めること。また、進める人

160ページ

計る

決め方をたしかめる



高山 (時間)

司会

では、五分で読めるこの五さつのうち、どれがいいでしょうか。  
わたしは、「三びきのやぎのらがらどん」がいいです。絵にはく  
りよくがあつて、大すきでした。

15



司会

たしかに、聞いて楽しい気持ちになるお話だと、本をすきになつて  
くれそうですね。他に意見はありますか。——  
それでは、五分で読める本の中から、聞いて楽しい気持ちになるも  
のをえらびましょう。みんなが考えを書いたふせんを、きろく係の森  
川さんが整理してくれているので、見てみましょう。

... (五分で読める本をかくにんする)



谷口

わたしは、聞いて楽しい気持ちになるお話がいいと思います。その  
ほうが、本をすきになつてくれると思うからです。

10



上田

司会

前の時間は、みんなで、読みたい本を出し合いました。今日は、そ  
の中から一さつを決めます。話し合う時間は二十分です。高山さん、  
時間を計ってください。読み聞かせの目的は、「一年生が本をすきに  
なつてくれるような、読み聞かせをする」です。読み聞かせの時間は  
五分なので、五分で読める本から目的に合うものをえらびましょう。  
まず、どんな本が目的に合うか、意見がある人はいますか。

5

① 五分で読める

読める

三びきのやぎの  
らがらどん

これはのみの  
びこ

読めない

ないた赤おに  
手ぶくろを  
買いに

15

■ふせんを使った整理のれい

10

• 発言をうながす。  
• ところどころで、そこま  
でに出た意見を整理する。

• 発言するときは、考えとそ  
の理由を言う。

5

• 話し合いの目的と進め方を  
たしかめる。  
• 何について意見を出しても  
らうのかをはつきりさせる。

話し合いをまとめる



司会

一年生に読む絵本は、「これはのみのびこ」に決めました。これから、みんなで読み聞かせの練習をしましょう。



谷口

森川さんが言ったように、「これはのみのびこ」は、一年生といっしょに声に出して楽しむことができそうですね。目的にも合います。



高山

そろそろ二十分たちます。まとめに入りませんか。

...

...

• さいごに、決まったことをたしかめる。

• 進行にそって、時間をたしかめながら発言する。

決め方にそって話し合う



高山

「これはのみのびこ」もおもしろいから、さんせいです。森川さんは、どんな音読ができそうだと考えていますか。



森川(きろく)

ぼくは、「これはのみのびこ」がいいと思います。少しずつ言葉がふえて文が長くなっていくお話なので、音読のしかたをくふうすると、聞いていて楽しいのではないのでしょうか。



司会

ちょっと待ってください。少し話がそれています。今は、聞いて楽しい気持ちになるお話かどうかを話し合しましょう。



谷口

わたしも大満足でした。ようち園でげきをして、やぎの役をしたことをおぼえています。

5

• はじめにたしかめた決め方にしたがって、話し合いを進める。  
• 話がそれたときは、元にもどす。



●理由が目的と合っていないときは、目的に合う理由を引き出すしつもんをしましょう。



「じごくのそうべえ」がいいです。短い時間で読めるし、お気に入りの本だからです。



ぼくは「じごくのそうべえ」を読んだことがないのですが、どういうところが、一年生に本をすきになってもらえそうだと思いますか。

●意見がまとまらないときは、決め方をたしかめましょう。

谷口



わたしは、ぜったいに、「にんきもののひけつ」がいいです。

「にんきもののひけつ」は、ぼくもすきです。でも、さつきたしかめた決め方の一つ目は、「五分で読めること」だったから、――

●意見がたくさん出てきたときは、考えを書いたふせんを動かしながら、話し合いの様子を整理しましょう。

### 使ってみよう司会の言葉

〈意見をきくとき〉

- 理由を教えてください。
- くわしくせつめいしてください。
- 他に、意見はありませんか。

〈意見が出ないとき〉

- 少し考える時間を取りましょう。
- さん、どんなところにさんせいなのかを教えてください。

〈意見をまとめるとき〉

- ここまでに出了意見は○つです。
- みんなの意見の同じところと、ちがうところを整理してみましょう。

「分ける・くらべる」



9ページ



#### 4 話し合いのしかたで、よかったところをつたえ合おう。

##### ■ 発言のしかた

はじめに自分の意見を言った後で、理由を言ったのがよかったね。

##### ■ 話し合いの整理のしかた

ふせんをならべかえながら考えたのが、分かりやすかったね。



#### ふりかえろう

- 知る
- 話す・聞く
- つなぐ

どんな言葉を使うと、話し合いがうまく進むと思いましたか。  
意見がまとまるように、自分の役わりの中でどのようなことに気をつけましたか。  
友だちの意見を聞くときや、話し合いをするときには、何に気をつけたいですか。



#### 役わりにおうじて話し合う

- 次のことを考えながら話し合おうと、話し合いが進みやすくなる。
  - 話し合いの目的や進め方と、自分の役わり。
  - どうやって決めるのか。
  - 友だちの考えと同じところ、ちがうところ。
  - 司会は、きろく係や時間を計る係ときょうりよくして、出た意見を整理しながら進行する。
- ★ いかそう**  
係活動や学習の中で何かを決めるときには、役わりを決めて話し合いましょう。

進  
すすむ  
すすめる

役  
ヤク

他  
ほか



## 漢字の広場

2年生で  
習った漢字

# 4

絵の中の町に住んでいるつもりで、町の様子をせつめ  
いする文を書きましょう。

〈れい〉 わたしの家は、町の北の方にあります。近所に、  
犬をかっている家があります。







れいの書かれ方に気をつけて読み、  
それをいかして書こう

## すがたをかえる大豆

読 じょうほう 科学読み物での調べ方

## 食べ物ひみつを教えます

大豆がすがたをかえるとは、どういうこと  
でしょうか。筆者のせつめいのしかたのくふ  
うを見つけてみましょう。そして、あなたも食  
物についてせつめいする文章を書きましょう。

### これまでの学習

📖 段落とその中心をとらえる

(言葉で遊ぼう・こまを楽しむ) …………… 上 58 ページ

📖 組み立てを考えて、ほうこくする文章を書く

(仕事のくふう、見つけたよ) …………… 上 96 ページ



# すがたをかえる大豆

国分こくぶん 牧衛まきえ

わたしたちの毎日の食事には、肉・やさ  
いなど、さまざまなきりょうが調理され  
て出てきます。その中で、ごはんになる米、  
パンやめん類るいになる麦の他にも、多くの人  
がほとんど毎日口にしているものがありま  
す。なんだか分かりますか。それは、大豆  
です。大豆がそれほど食べられていること

5





は、意外と知られていません。大豆は、いろいろな食品にすがたをかえていることが多いので気づかれないのです。

大豆は、ダイズという植物のたねです。

えだについたさやの中に、二つか三つのた

ねが入っています。ダイズが十分に育つと、

さやの中のたねはかたくなります。これが、

わたしたちが知っている大豆です。かたい

大豆は、そのままでは食べにくく、消化も

よくありません。そのため、昔からいろいろ

ろ手をくわえて、おいしく食べるくふうを

してきました。

10

5



○消化<sup>シヨウカ</sup>

○育つ<sup>そだつ</sup>

○筆者<sup>シヤ</sup> ○大豆<sup>ダイズ</sup>

いちばん分かりやすいのは、大豆をその形のままいったり、にたりして、やわらかく、おいしくするくふうです。いると、豆まきに使う豆になります。水につけてやわらかくしてからにると、に豆になります。正月のおせちりょうりに使われる黒豆も、に豆の一つです。に豆には、黒、茶、白など、いろいろな色の大豆が使われます。

次に、こなにひいて食べるくふうがあります。もちやだんごにかけるきなこは、大豆をいって、こなにひいたものです。

また、大豆にふくまれる大切なえいようだ

10

5



豆<sup>まめ</sup>  
まき

けを取り出して、ちがう食品にするくふうも  
あります。大豆を一ばん水にひたし、なめら  
かになるまですりつぶします。これに水をく  
わえて、かきまぜながら熱ねっします。その後、  
ぬのを使って中身をしぼり出します。しぼり  
出したしるににがりというものをくわえると、  
かたまって、とうふになります。

5

さらに、目に見えない小さな生物の力をか  
りて、ちがう食品にするくふうもあります。  
ナットウキンの力をかりたのが、なっとう  
です。むした大豆にナットウキンをくわえ、  
あたたかい場所に一日近くおいて作ります。

10



○取り出す



コウジカビの力をかりたものが、みそやしょうゆです。みそを作るには、まず、おした米か麦にコウジカビをませたものを用意します。それと、しおを、にてつぶした大豆にくわえてませ合わせます。ふたをして、風通しのよい暗い所に半年から一年の間おいておくと、大豆はみそになります。しょうゆも、よくにた作り方をします。

これらの他に、とり入れる時期や育て方をくふうした食べ方もあります。ダイズを、まだわかくてやわらかいうちにとり入れ、さやごとゆでて食べるのが、えだ豆です。また、

10

5



時  
○期キ

ダイズのたねを、日光に当てずに水だけをやって育てると、もやしができます。

このように、大豆はいろいろなすがたで食べられていきます。他の作物にくらべて、こんなに多くの食べ方がくふうされてきたのは、

大豆が味もよく、畑の肉といわれるくらいたくさんのえいようをふくんでいるからです。

そのうえ、やせた土地にも強く、育てやすいことから、多くのちいきで植えられたためでもあります。大豆のよいところに気づき、食事に取り入れてきた昔の人々のちえにおどろかされます。

10

5



日光  
コウ

畑  
はたけ

国分 牧衛

一九五〇年、岩手

県生まれ。農学者。

ダイズやイネのけん

きゆうをしている。



見通しをもとう

# れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう

- 筆者が、どのようにれいをあげているかを考えて読みましょう。
- れいの書き方をくふうして、せつめいする文章を書きましょう。

## とらえよう

- 文章全体の組み立てについて考えましょう。
- 全体を「はじめ」「中」「終わり」に分けましょう。
- 筆者が、「中」であげている具体的なれいを、ノートに整理しましょう。
- 「いる」「にる」のような、大豆に手をくわえるときの言葉の意味を、国語辞典でたしかめましょう。

1  
2

5

## ふかめよう

- 「すがたをかえる大豆」には、「はじめ」に「問い」がありません。「問い」を入れるとしたら、どこに、どんな文を入れますか。
- 「中」の書かれ方について考えましょう。

10

### 1 段落の組み立て

おわり	中	はじめ
全体をまとめている。	「はじめ」に示めた話題について、具体的なれいをあげて、せつめいしている。	これからせつめいする話題を、おおまかにしめしている。

※くうらんに、段落の番号を書きましょう。

### 2 ノートのれい

れい	1
おいしく食べるくふう	その形のままいったり、にたりして、やわらかくする。
食品	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 豆まきの豆</li> <li>• に豆</li> </ul>

10

5



- 読んだ本の感想を、友だちにつたえましょう。
- はじめて知ったこと、他の人に知らせたいこと。
- せつめいのしかたで分かりやすいところ、くふうされてきたところ、まねしたいところ。

● 「食べ物のはみつを教えます」（51ページ）では、食べ物について調べて、せつめいする文章を書きます。学校図書館などで、食べ物についての本を読んでみましょう。そして、感想をまとめましょう。

3

10

- それぞれの段落の大事な文は、どこにあるか。
- どんなじゆんじよで、れいをあげているか。
- 筆者のせつめいのしかたには、どのようなくふうがあるでしょう。次のことから考えましょう。
- 文章全体の組み立てと、それぞれの段落の組み立て
- 言葉の使い方
- 写真の使い方 など

5



たいせつ

### 話題と、れいの書かれ方をとらえる

- 題名や「はじめ」から、話題をたしかめる。
- 「中」のれいと話題とのつながりをとらえ、それぞれの段落の役わりを考える。
- れいをあげるじゆんじよや写真の使い方など、筆者のれいの書き方に気をつける。

5

### 3 食べ物について書かれた本

魚がへんしん！



すがたをかえる食べものずかん



米・麦からつくる食べ物



野菜・くだものからつくる食べ物





じょうほう

# 調べるときに使おう 科学読み物での調べ方

「もち米は、米を  
「むして食べるく  
ふう」なんだ。」



## 切りもちができるまで

伝統的なもちつきでは、まんべんなくつくために2人1組になり、1人がつくともう1人が生地の上を返すというのをくり返します。工場で作るときはこの方法にない、生地の上を返しながらつくります。

### ① もち米を蒸す

洗って水にひたしたもち米を、30～40分間蒸気で蒸す。蒸しあがったものをおこわとよぶ。



蒸しあがったおこわ



小づきをして、ねばりけが出た生地

### ② おこわをつく

おこわを小分けにし、ついたときに飛び散らないように、米のつぶをつぶして軽く練る小づきをおこなう。それからうすに入れて100回ほどつく。



うすの釜の内壁が回転し、生地の上を返しながまんべんなくつく。



プレス機で板状にのばし、厚さを一定にする。



板状のもちを、長方形になるように切っていく。

### ③ のぼす・冷やす

つきあがったやわらかいもちを板状にのぼし、一気に冷やして固める。そのまま10度以下に降られた冷蔵庫で2～3日ぬかせる。

### ④ 切る

冷えて固まったもちを均等な大きさに切り、焼いたときにふくらみやすいように、表面に十字の切りこみを入れてから、ひとつずつ包装する。

### もち米を使わないもち?

秋田県の郷土料理、きりたんぼは、もちもちとした食感ですが、もち米ではなくうるち米が使われています。たいとううるち米をつぶし、細い竹のまわりにめりつけて、焼いてつくります。また、朝鮮半島で食べられているトックも、もちに似ていますが、うるち米の粉を練り、棒状にのぼしてつくります。



きりたんぼ  
だし汁で煮たり、みそをつけて焼いたりして食べる。



トック  
肉や野菜などといっしょにしためて食べる人が多い。

- ① 食べものはかせになろう! ② 米・麦からつくる食べもの
- ② 2010年3月 第1刷発行
- ③ 監修 いしたにたかすけ 石谷孝佑
- ④ 発行所 株式会社〇〇社  
〒〇〇〇-〇〇〇〇  
東京都〇〇区〇-〇

- ① 書名
- ② 発行年
- ③ 作者・筆者
- ④ 出版社名

その本の書名や作者・筆者名、発行年、発行者などを記したページ。  
160ページ

■奥付のれい

「奥付」を見て、①～④のことも書きましよう。

調べたことをきろくするときには、「奥付」を見て、①～④のことも書きましよう。

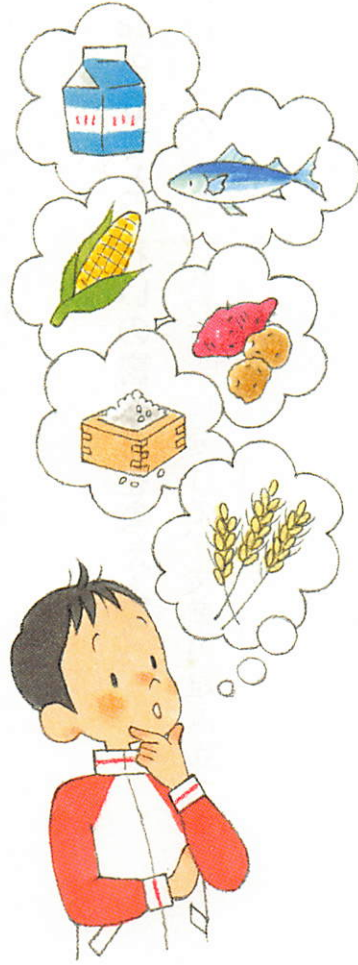
知りたいことを、本の中から見つける  
目次やさくいで、知りたいことがのつ  
ているページを見つけたら、自分にひつよ  
うなところを中心に読みましよう。

奥付をたしかめる



# 食べ物のひみつを教えます

「すがたをかえる大豆」のように、すがたをかえて食品になるざいりようについて、せつめいする文章を書きましょう。書いた文章は、友だちに読んでもらいましょう。



## 1 ざいりようを決め、調べよう。

下にあげたざいりようは、いろいろな食品にすがたをかえて、食べられています。こうしたざいりようから一つをえらび、おいしく食べるくふうや食品のれいを調べましょう。「すがたをかえる大豆」の学習で読んだ本を、読み返してもいいですね。

5

### ●学習の進め方

- 1 ざいりようを決め、調べる。
- 2 調べたないようを整理する。
- 3 組み立てと、れいの書き方を考える。
- 4 下書きを書いて読み返す。
- 5 清書する。
- 6 感想をつたえ合う。

### ■調べるざいりようのれい

米 麦 とうもろこし  
牛乳 にゅう 魚 いも

ギョウ  
●牛乳



## 2 調べたないようを整理しよう。

おいしく食べるくふうや食品のれいを、図や表にして整理しよう。

整理してみて、さらに知りたいことがあれば、べつの本で調べたり、家の人にきいたりしましょう。学校の調理師さんや、えいよう士さんにたずねてもいいですね。

## 3 組み立てと、れいの書き方を考えよう。

「はじめ」「中」「終わり」に分けて、文章の組み立てを考えよう。

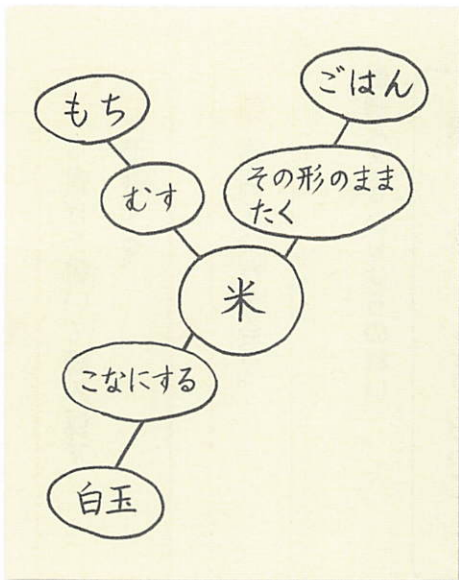
「すがたをかえる大豆」のよう  
に、分かりやすいれいのあげ方になるよう、くふうしましょう。

「すがたをかえる大豆」は、  
どんなふう段落を分けて  
書いてあったかな。



## ■ 整理のしかたのれい

〈図で整理する〉

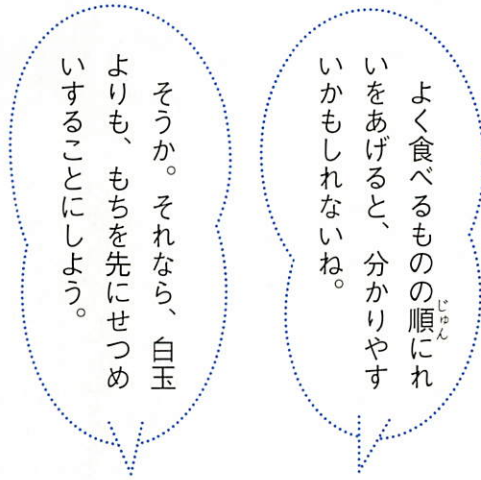


〈表で整理する〉

ざいりよう……米

・おいしく食べるくふう	・その形のままたく	・こなにする
食品	・ごはん	・白玉

組み立てを考えたたら、友だちと読み合い、気づいたところを助言し合いましょう。



**4** 下書きを書いて読み返そう。

組み立てにそつて、下書きをします。「すがたをかえる大豆」の書き方のくふうを思い出して、それぞれの段落の書き方を考えましょう。

下書きは読み返して、分かりにくいところがないかたしかめましょう。

■ 組み立てのれい

終わり	中	はじめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おいしく食べるくふうと、食品のれい</li> <li>その形のままたく——ごはん</li> <li>こなにする——白玉</li> <li>むす——もち</li> </ul> <p style="text-align: center;">ぎやくにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここでせつめいする</li> <li>ざいりょうについて——米</li> </ul>

▼ 助言をうけて、組み立てをかえるときは、どうかえるかを書いておきましよう。

## 5 清書しよう。

下書きをもとに、ていねいに清書しましょう。

### いろいろなすがたになる米

上田 はると

米には、いろいろな食べ方のくふうがあります。

まず、米をその形のままたいて食べるくふうがあります。

米をといで、水につけてからたくと、ごはんになります。

次に、むして食べるくふうがあります。もち米という米を

むして、うすときねでつくと、もちになります。もちつきの

きかいを使うこともあります。

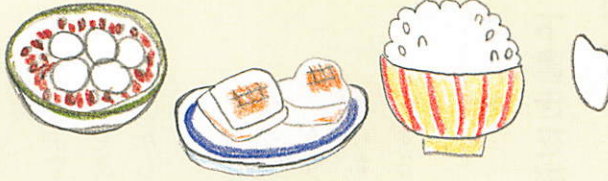
さらに、こなにしておべるくふうもあります。もち米をこ

なにしたものに、水を入れて練ります。それをゆでると、白

玉になります。

このように、米は、くふうされて、いろいろなすがたに

なっておべられているのです。



15

終わり

10

中

5

はじめ



## 6 感想をつたえ合おう。

友だちと文章を読み合い、感想や文章のよいところをつたえましょう。

### ■書き方について

れいが整理して書いてあるから、米の食べ方のくふうがよく分かった。



### ■ないようについて

米から、どうやって白玉ができるか、ていねいに調べてあった。



### ふりかえろう

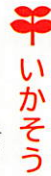
- 知る
- 読む
- 書く
- つなぐ

何に気をつけて本を読みましたか。  
 れいのあげ方について、どんなくふうに気がつきましたか。  
 気がつきたくふうを、自分の文章にどうかしましたか。  
 せつめいする文章を読んだり書いたりするとき、どんなことに気をつけたいですか。



### れいをあげて書く

- ないようのまとまりごとに、段落を分ける。
- つたえたいことに合ったれいをあげる。
- れいをあげるじゅんじょや、絵や写真のしめし方をくふうする。



社会や総合的な学習の時間などで、調べたことをせつめいするときには、読み手に分かりやすいれいをあげるようにしましょう。

豆

トウ  
ズ  
まめ

者

シヤ  
もの

育

イク  
そだつ  
はぐくむ  
そだてる

消

シヨウ  
きえる  
けす

取

シユ  
とる

期

キ

畑

はた  
はたけ



154  
ページ

つたわる言葉

# ことわざ・こ故事成語せい

「わらう門かどには福来たる」という言葉を耳にしたことはありますか。この言葉には、いつもにこにことわらってくらしている人のもとには、しぜんとよいことがやって来るといふ意味があります。

このように、生きていくうえでのちえや教えを、短い言葉や言い回しで表したものをことわざといひます。

5



ことわざを集めて作った「いろはがるた」

○苦<sup>ク</sup>  
勞

○福<sup>フ</sup>

▼ 次のことわざの意味を、国語辞典やことわざの本を使って調べましょう。ことわざの本で調べるときは、目次やさくいんを使いましょう。

犬も歩けば  
ぼくに当たる



わかいときの苦勞は  
買ってませよ



善は急げ



おびに短し  
たすきに長し



ちりもつもれば  
山となる



所かわれば  
品かわる



石橋を  
たたいてわたる



ねこの手も  
かりたい




さるも木から  
落ちる

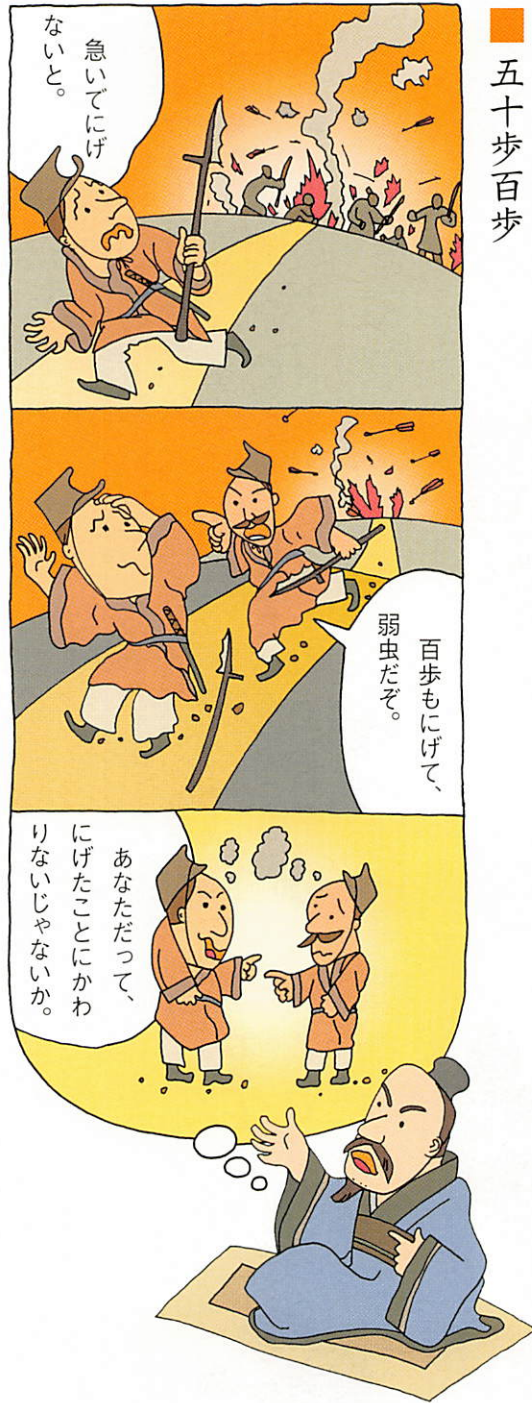




ことわざにいた短い言葉で、中国につたわる古い出来事や物語が元になってきた言葉を、**故事成語**といっています。

「知ると楽しい『故事成語』」  
 146 ページ

五十歩百歩



〈意味〉多少のちがいはあるものの、大きなちがいではないこと。  
 (孟子という人物が王様にした、たとえ話が元になってきた言葉。)

故事成語には、「矛盾」「推敲」「漁夫の利」など、今でも使われている言葉がたくさんあります。意味とともに、どのような由来があるのかも調べてみましょう。

多  
少





## ことわざ辞典を作ろう

グループで、自分たちのことわざ辞典を作ってみましょう。

① すきなことわざを、一人三つずつえらぶ。

② カードに、ことわざと意味を書く。そのことわざを使った文も考える。

〈ことわざを使った文のれい〉

• お客さんがいつもの二倍も来て、ねこの手もかりたいくらい*いそがし*さだ。

③ みんなのカードを集め、どのような順でとじるかを相談し、本にする。

## この本、読もう

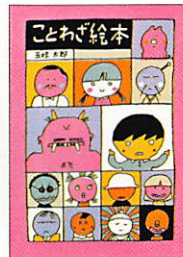
ことわざや故事成語について書かれた本や辞典を読みましょう。



まんがで学ぶ  
故事成語



ことわざ絵本



小学生のまんが  
ことわざ辞典



二倍  
相談

ことわざや故事成語の中には、時代に合わなくなったものや、使い方によって相手をいやな気持ちにさせるものもあります。気をつけて使しましょう。

福  
フク

苦  
ク  
くるしい  
くるしむ  
くるしめる

倍  
バイ

談  
ダン

にがいに  
かかると

154  
ページ



言葉 漢字の意味

人形にはなをつける。

右の文を読んで、左の絵のどちらを思  
うかべますか。



「はな」という言葉を漢字で書けば、  
どちらの意味かすぐに分かります。  
人形に①花をつける。②鼻をつける。

漢字は、それだけで意味も表します。  
同じ発音の言葉でも、意味がちがえば、  
使われる漢字がちがってきます。

5

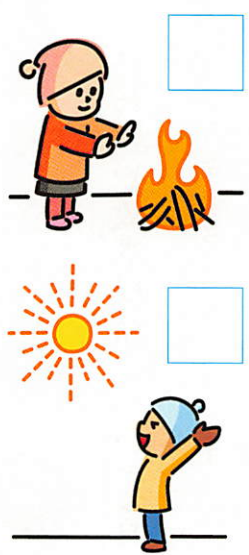
1 絵を見て、——線のついた言葉に当

てはまる漢字を書きましょう。

① はがきれいだ。

歯

② ひに当たる。



• 交ま  
ぜる

○ 歯は      ○ 鼻はな



次の文を読んでみましょう。

・ははははははじょうぶです。

・母は齒はじょうぶです。

漢字とかなを交ぜて書くことで、意味が分かり、文が読みやすくなります。

**2** 次の文の□には、( )の中のどちらが当てはまるでしょうか。

① カイ (階・回)

・二□の中央から、大きな物音が聞こえた。

・おじは、二□目の海外旅行に出かけた。

10

5

② キシヤ (汽車・記者)

・委員会の仕事について、学級新聞の□からインタビューをうけた。

・昭和のはじめの駅の様子や、□の仕組みについて教わる。

③ カジ (家事・火事)

・山□の消火作業を行う。

・□のてつだいで、じゃがいもの皮むきと皿あらいをする。

**3** 「これまでに習った漢字」(148ページ)から、同じ読み方で、意味のちがう漢字を見つけて、それぞれの漢字で文を作りましょう。

10

5

○階カイ

○中央オウ

○海外旅行リョ

○委員会イ

○学級新聞キユウ

○昭和シヨウワ

○駅エキ

○教わるおそ

○消火作業ギョウ

○皮むきかわ

○皿あらいさら

鼻はな

齒は

業ギョウ

階カイ

皮かわ

皿さら

央オウ

旅リョ

委イ

級キユウ

昭シヨウ

和ワ

声に出して楽しもう

# 短歌を楽しもう

声に出して読み、言葉の調子やひびきを楽しみましょう。  
気に入ったものは、おぼえて言ってみましょう。

短歌は、五・七・五・七・七の三十一音<sup>おん</sup>で作られた短い詩です。短歌の三十一音の中には、しぜんの様子や、そこから感じられること、心に思ういろいろなことなどが表されています。

むしのねも のこりすくなに なりにけり  
よなよなかぜの さむくしなれば

良寛<sup>りょうかん</sup>

虫の鳴き声もあまり聞こえなくなってきたなあ。夜ごとにふく  
風が寒くなるので。

## 短歌<sup>カ</sup>

短歌は、一首<sup>しゅ</sup>、二首  
というように、「首」  
を使って数える。

秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

ふじわらのとしゆき  
藤原敏行

秋が来たと、目に見えてはつきりとは分からなかったけれども、風の音が秋らしくて、はっとしたよ。

奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき

さるまるだゆう  
猿丸大夫

奥深い山で紅葉を踏み分けながら鳴いている鹿の声を聞くとときこそ、秋の悲しさを感じるものだなあ。

天の原振りさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも

あべのなかまろ  
安倍仲磨

広々とした大空をずっと遠くまで見わたしてみると、月が出ている。あれは、昔、春日の三笠山に出ていた月と同じなのだなあ。







# 漢字の広場

2年生で  
習った漢字

## 5



学校では、どんなことをしていますか。  
日記をつけるように書きましょう。  
（れい）理科の時間に、かん電池を使って、  
じっけんをした。

かん電池<sub>チ</sub>



読む

組み立てをとらえて、  
民話をしようかいしよう

# 三年とうげ

3

「三年とうげ」は、どんなところでしよう。  
このとうげでは、どんなことが起こるので  
しょうか。おもしろさを見つけながら読んで  
いきましよう。



これまでの学習

場面のようすや、登場人物の気持ちやそらぞらする  
(きつつきの商売) …………… 上 28 ページ

物語に対する感想をもつ  
(ちいちゃんのかげおくり) …………… 28 ページ

# 三年とうげ

李<sup>リ</sup>錦<sup>ズム</sup>玉<sup>オキ</sup>作  
朴<sup>ハク</sup>民<sup>ミン</sup>宜<sup>ニ</sup>絵

あるところに、三年とうげとよばれるとうげがありました。

あまり高くない、なだらかなとうげでした。

春には、すみれ、たんぽぽ、ふでりんどう。とうげからふもとまで  
さきみだれました。れんげつつじのさくころは、だれだったため息の  
出るほど、よいながめでした。

秋には、かえで、がまずみ、ぬるでの葉。とうげからふもとまで美  
しく色づきました。白いすすきの光るころは、だれだったため息の出  
るほど、よいながめでした。

5

○美<sup>うつく</sup>しい

○た<sup>た</sup>め<sup>め</sup>息<sup>いき</sup>







三年とうげには、昔から、こんな言いつたえがありました。

「三年とうげで 転ぶでない。

三年とうげで 転んだならば、

三年きりしか 生きられぬ。

長生きしたけりや、

転ぶでないぞ。

三年とうげで 転んだならば、

長生きしたくも 生きられぬ。」

ですから、三年とうげをこえるときは、みんな、

転ばないように、おそろおそろ歩きました。

ある秋の日のことでした。一人のおじいさん

が、となり村へ、反物たんを売りに行きました。

○転ころぶ



そして、帰り道、三年とうげにさしかかりました。白いすすきの光るころでした。おじいさんは、こしを下ろしてひと息入れながら、美しいながめにうっとりしていました。しばらくして、

「こうしちやおれぬ。日がくれる。」

おじいさんは、あわてて立ち上がると、

「三年とうげで 転ぶでないぞ。」

三年とうげで 転んだならば、

三年きりしか 生きられぬ。」

と、足を急がせました。

お日様が西にかたむき、夕やけ空がだんだん暗くなりました。

10

5



反物

着物を作るための  
ぬの。





ところがたいへん。あんなに気をつけて歩いていたのに、おじいさんは、石につまずいて転んでしまいました。おじいさんは真っ青になり、がたがたふるえました。

家にすっとなでいき、おばあさんにしがみつき、おいおいなきました。「ああ、どうしよう、どうしよう。わしのじゅみょうは、あと三年じゃ。三年しか生きられぬのじゃあ。」

その日から、おじいさんは、ごはんも食べずに、ふとんにもぐりこみ、どうとう病気になるてしまいました。お医者をよぶやら、薬を飲ませるやら、おばあさんはつきつきりで看病かんしました。けれども、おじいさんの病気はどんどん重くなるばかり。村の人たちもみんな心配しました。

そんなある日のこと、水車屋のトルトリが、みまいに来ました。

10

5

◆ 真まつ青さお



水車屋  
水車を使い、米や麦をこなにひく仕事をしている人。

○ 心配しんぱい

○ 重おもい

○ 飲のむ

○ 薬くすり

○ 医い者

○ 病びょう気き







「おいらの言うとおりにすれば、おじいさんの病気はきつとなおるよ。」  
「どうすればなおるんじゃ。」



おじいさんは、ふとんから顔を出しました。

「なおるとも。三年とうげで、もう一度転ぶんだよ。」

「ばかな。わしに、もっと早く死ねと言うのか。」

「そうじゃないんだよ。一度転ぶと、三年生きるんだろ。二度転べば六年、三度転べば九年、四度転べば十二年。このように、何度も転べば、ううんと長生きできるはずだよ。」

おじいさんは、しばらく考えていましたが、うなずきました。

「うん、なるほど、なるほど。」

そして、ふとんからはね起きると、三年とうげに行き、わざとひっくり返り、転びました。

このときです。ぬるでの木のかげから、おもしろい歌が聞こえてきました。



「えいやら えいやら えいやらや。

一ぺん転べば 三年で、

十ぺん転べば 三十年、

百ぺん転べば 三百年。

こけて 転んで ひざついて、

しりもちついて でんぐり返り、

長生きするとは、こりゃ めでたい。」

おじいさんは、すっかりうれしくなり

ました。



ころりん、ころ

りん、すってんころ

り、ぺったんころりん、

ひよいころ、ころりんと、

転びました。あんまりうれし

くなったので、しまいに、とう

げからふもとまで、ころころころ

りんと、転がり落ちてしまいました。

そして、けろけろけろっとした顔をして、

「もう、わしの病気はなおった。百年も、

二百年も、長生きができるわい。」

と、にこにこわらいました。

10





こうして、おじいさんは、すっかり元気になり、おばあさんと二人  
なかよく、幸せに、長生きしたということですよ。

ところで、三年とうげのぬるでの木のおかげで、

「えいやら えいやら えいやらや。」

一ぺん転べば 三年で、

十ぺん転べば 三十年、

百ぺん転べば 三百年。

こけて 転んで ひざついて、

しりもちついて でんぐり返り、

長生きするとは、こりゃ めでたい。

と歌ったのは、だれだったのでしょうね。

10

5



しあわ  
せ  
。幸

李錦玉

一九二九年、大阪  
府生まれ。作家。「へ  
らない稲たば」「お  
ばけのトケビはわす  
れんぼう」などの作  
品がある。

この本、読もう



世界には、古くから語りつたえられてきた民話や昔話がたくさんあります。いろいろな国やちいきのお話を読んでみましょう。



世界のむかしばなし



いたずらおばけ



りこうな子ども アジアの昔話

5



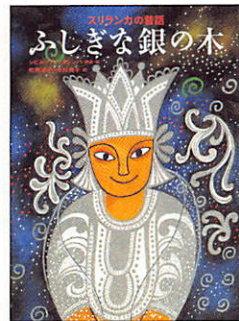
天の火をぬすんだウサギ



シンドバットの冒険



くいしんぼうシマウマ



スリランカの昔話  
ふしぎな銀の木



わたしが好きな「おおきなかぶ」は、ロシアの民話なんだって。





見通しをもとう

## 組み立てをとらえて、民話をしようかいしよう

- ・登場人物の行動や様子を表す言葉に気をつけましょう。
- ・組み立てに着目して読み、登場人物の変化をとらえましょう。

○ はじめ 始まり  
 ● あら 新たな

### とらえよう

● 次のないようが書かれている場面をたしかめ、「三年とうげ」の組み立てをとらえましょう。

① 「三年とうげ」は、どんなところで、どんな人物が出てくるか。

② どんな出来事が起こったか。

③ 新たにどんな人物が登場し、どのように解決したか。

④ その後、「おじいさん」はどうなったか。

● お話のはじめと終わりでかわったのは、だれですか。

その人物は、何によって、どうかわりましたか。

● 「三年とうげ」を読んで、おもしろいと思ったところ

10

5

### 1 民話や昔話の多くに当てはまる組み立て

- ① 始まり（時、場所、登場人物などのしようかい）
- ② 出来事（事件）が起こる（登場人物がこまる、など）
- ③ 出来事（事件）が解決する
- ④ むずび（その後、どうなったか）

※①と④の間で、②と③をくり返すこともある。

### 2 言葉

- 行動や様子を表す言葉に気をつけましょう。
- おじいさんは真つ青になり、
- おいおいなきました。
- ふとんからはね起きると、
- 声に出して読み、調子のよいところをさがしましょう。

10

5





### ふりかえろう

- 知る
- 読む
- つなぐ

民話や昔話のおもしろさは、どんな言葉に表れていましたか。  
 民話や昔話は、どのような組み立てで書かれていましたか。  
 これから物語を読むときには、何に着目しておもしろさを見つけたいですか。



### ひろげよう

● 民話や昔話のおもしろさが、友だちにつたわるようにしようかいしましょう。

3

### まとめよう

● 自分が読んだ民話や昔話について、登場人物や出来事、おもしろかったところやその理由をノートに書きましょう。

5

ろはどこですか。友だちと話しましょう。

2

- 出来事とその解決などの、物語の組み立て。
- 登場人物の行動や様子の表し方、また、その変化。
- 言葉の使い方や文の調子。

### 3 しょうかいのれい

ぼくがしょうかいするお話は、「ほしになったりゅうのきば」です。これは、中国ちゆうごくの民話です。

題名と、  
どこの国の  
お話か

りゅうのけんかやぶれてしまった天のさけめを、サンという人物がふさぎにいくお話です。

どんなお話か  
● 登場人物  
● 大きな出来事

ぼくがいちばんおもしろいと思ったのは、サンが、大きな足音のするわらじや、山をゆらす手ぶくろなどを、どんどん手に入れていくところです。次は何が起ころのかなど、わくわくしてきます。ぜひ読んでみてください。

おもしろいと思うところ  
● 出来事  
● 人物の変化  
● 言葉や文  
など



たいせつ

### 組み立てをとらえる

● 民話や昔話を読むときには、次のような組み立てをとらえながら読む。

- ① 始まり
- ② 出来事（事件）が起こる
- ③ 出来事（事件）が解決する
- ④ おすび

● 組み立てをとらえると、登場人物の考えや、気持ちの変化がよく分かる。



いかそう

お話の組み立てをとらえると、お話のないようやおもしろさを、他の人につたえやすくなります。



息

ソク  
いき

美

ビ  
うつくしい

転

テン  
ころがる  
ころげる  
ころがす  
ころぶ

病

ビョウ  
やまい

医

イ

薬

ヤク  
くすり

飲

イン  
のむ

重

ジュウ  
チヨウ  
え  
おもい  
かさねる  
かさなる

配

ハイ  
くばる

度

ド

幸

コウ  
さいわい  
しあわせ

始

シ  
はじめる  
はじまる



155  
ページ



組み立てにそつて、物語を書こう

# たから島のぼうけん

82ページに、たから島の地図があります。この地図には、たから物のある場所と、そこまでの道すじがえがかれ、とちゅうには、川や火山、動物などが待ち受けています。地図を見ながら、ぼうけんの様子をそうぞうしましょう。そして、組み立てに気をつけて、物語を書きましょう。



5

● たしかめよう

「三年上までの学びをたしかめよう」  
「三年とうげ」  
78ページ

● 学習の進め方

決めよう  
集めよう

1 地図を見て、そうぞうする。

2 組み立てと場面の様子を考  
える。

3 物語を書いて、読み返す。

4 友だちと読み合う。

つなげよう

書こう

組み立てよう

● ふりかえろう





## 1 地図を見て、そうぞうしよう。

地図を見ながら、物語のないよう  
をそうぞうしましょう。友だちと話  
しながら考えてもいいですね。

■物語のないようを考えるときには

- ぼうけんするのは、どんな人物か。
- どのようにして地図を手に入れたか。
- どの道をえらび、どんなものや動  
物と出会ったか。
- 登場人物は、どんな行動をしたか。
- どんなたから物を手に入れたか。
- 登場人物は、その後どうなったか。

たから島 じま  
待ち受ける まちうける

## 2 組み立てと場面の様子を考えよう。

多くの物語は、次のような組み立てて書かれています。1で  
 そうぞうしたことをもとに、組み立てを整理しましょう。

### 1 始まり

- 登場人物、時(きせつ・時間)、場所など
- 物語が始まるきっかけ

### 2 出来事(事件)が起こる

### 3 出来事(事件)が解決する

### 4 むすび

- 出来事のけっか、どうなったか

※②と③は、くり返すことがある。

また、場面ごとに、まわりの様子、人物の気持ちや会話を考えましょう。読み手を引きつけたい場面は、とくにくわしく考えましょう。

15

10



ワニに追いかけられたら、読む人はどきどきするだろうな。どうやって解決することにしようかな。

5

## ■物語の組み立てのれい

4 むすび	3 出来事(事件)が解決する	2 出来事(事件)が起こる	1 始まり
<ul style="list-style-type: none"> <li>二人は、ぶじに家に帰る。</li> <li>たから島のことは、だれにも言わない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワニにかまれそうになるそうまに、ゆながつるをわたす。</li> <li>そうまが、ワニの口につるをまく。</li> <li>二人は、うまくにげだす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>そうまが、めずらしい鳥に見とれて、ワニのしっぽをふむ。</li> <li>二人は、あわててにげるが、そうまが転んでしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>そうまとゆなは、なかよし。</li> <li>ある朝、道に地図が落ちていた。</li> <li>たから島に出かける。</li> </ul>

15

10

5



### 3 物語を書いて、読み返そう。

組み立てにそって物語を書きましよう。場面の様子や登場人物の行動、気持ちが合ったわるよう、言葉を書きえらんで使いましよう。

「言葉のたから箱」  
157ページ

物語を書いたら、分かりやすい表現になつてゐるか、主語と述語は合つてゐるか、文字にまちがいがなかなどを、たしかめましよう。

### 4 友だちと読み合おう。

友だちの物語を読んで、感想をつたえましよう。

- おもしろかつたところ
- まねしたいところ

## たから島のぼうけん

谷口 あかり

そうまとゆなは、小さいころからの友だちで、毎日いっしょに登校するほどなかよしです。

ある朝、いつものように二人が学校へ向かっていると、道に一まいの地図が落ちていました。

めずらしい鳥に見とれたそうまは、何かをふみました。なんとそれは、おそろしいワニのしっぽだったので。

「このつるを使って。急いで。」

そうまは、ゆなにもらつた草のつるで、ワニの口をぐるぐるとしばりました。二人は、とぶようににげました。

二人は、ぶじに島から家へ帰ることができました。でも、たから島のことはだれにも話しませんでした。

15

10

5

15

10

5

④ むすび

③ 出来事(事件)が解決する

② 出来事(事件)が起こる

① 始まり





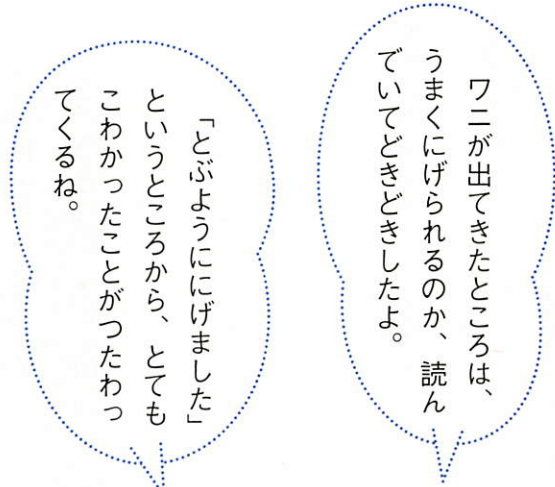
ふりかえろう

- 知る
- 書く
- つなぐ

場面の様子や登場人物の行動、気持ちをつたえるために、どんな言葉を使いましたか。

そうぞうしたことを、どのような組み立ての物語にしましたか。

これから、物語を作るときには、どんなことに気をつけたいですか。



物語の組み立てを考えて書く

- 物語は、次のような組み立てて書く。
- ① 始まり    ② 出来事(事件)が起こる
- ③ 出来事(事件)が解決する    ④ むすび
- 組み立てを整理するときは、場面の様子や登場人物のことをくわしく考える。



身の回りで起きた出来事をつたえるときにも、話の組み立てや言葉の使い方にくふうしましょう。

# 冬のくらし

ゆき

かわさき ひろし  
川崎 洋

はつゆき ふった

こなゆき だった

くつの下で きゅつきゅとないた

どかゆき ふった

のしのし ふって

ずんずん つもり

ねゆきになった



5

生活の中で、冬らしさを感じることはありますか。身の回りで見つけた、冬を感じたものについて書きましよう。

わたしは、寒いきせつには、ゆたんぽを使っていきます。ねる前におゆを入れて、ふとんの中で使います。つめたい足を温めてくれるので、よくねむれます。

◆寒い冬をあたたくくすごすためのくふうです。



ストーブ



こたつ

5

銀世界

べたゆき ふって  
ぼたゆき ふって  
ざらめゆきになつて  
もうすぐ 春だ

雪がっせん

雪遊び

雪かき



◆冬は、土の中で育つやさいがおいしいといわれています。

だいこん

にんじん

れんこん

かぶ







詩の楽しみ方を見つけよう

# 詩のくふうを楽しもう

何かがかくれている詩です。それぞれの行のさいしょの字を、つなげて読みましょう。

和田 誠わだ まこと

はせ みつこ

からはおもくて

たくさんあるくと

つかれるけれど

むりしてたてた

りっぱなおうち

5

ことばはつなぐ

とおくとちかく

ばらとみつばち

だれかとだれか

いまとむかし

すきときらい

きみとわたし

5

声に出して読むと、楽しい詩です。

# あした

石津 ちひろ

あしたのあしたは

あたらしいあした

あたらしいあした

あしたのあしたは

あたらしいあした

あたらしいあした

5

# たいこ

谷川 俊太郎

どんどんどん

どんどんどん

どんどんどん

どんどんどん

どんどんどん

どんどんどん

どんどんどん

どんどんどん

どんどんどんどん

どんどんどんどん

どんどんどんどん

どんどんどん

10

5





▼次の中から活動をえらんで、詩を楽しみましょう。

### ① 詩を見つける

これまでに読んだり、教科書で出会ったりした詩の中から、おもしろいくふうだと思えるものを見つけてみましょう。友だちにしようかいいしてもいいですね。

5

### ② 詩を作る

おもしろいなと思ったくふうを使って、詩を作ってみましょう。国語辞典じてんを使ってもよいでしょう。

5

## この本、読もう



かきふたつて  
どんなぶた



ことばあそびうた



ぼくの名前をかくした  
詩を作ってみようかな。



10



# カンジーはかせの 音訓くんかるた

カンジーはかせが、音訓かるた大会を開きました。かるたの読みふだには、漢字の音と訓を使った、リズムのよい歌が書かれています。



遠足だ  
遠くに行けて  
うれしいな

## 1 カンジーはかせが作った歌を、声に出して読みましょう。

- 千代紙で 千羽のつるを おりました
- 曲がる球 投げる投手に なりたいな
- 石炭は もえるふしぎな 黒い石
- 運転を 終えたら車庫に 車入れ
- 羊毛が ふわふわしてる 羊さん
- ならめっこ勝負に勝ったうれしいな
- 旅先の 宿で宿題 はかどらず
- 昼食で どうふ一丁 食べました

10

5

○宿やど ○勝シヨウ負 ○羊ヨウ毛 ○車庫 ○石炭 ○投シユ手 ○投なげる ○曲まがる ○千ち代よ紙

帳 チヨウ  
代 ダイ  
タイ  
かわる  
よ  
かえる

宮 キユウ  
曲 キョク  
まがる  
まげる

院 イン  
投 トウ  
なげる

笛 テキ  
炭 タン  
すみ

礼 レイ  
庫 コ

羊 ヨウ  
ひつじ

勝 ショウ  
かつ

宿 シュク  
やど  
やどす



丁 チヨウ  
ウ

  
155 ページ

2 カンジーはかせのように、漢字の音と訓を両方使った、リズムのよい歌を作りましょう。



- 日記帳 三日ぼうずは そつぎようだ
- 宮大工 大きな寺院 しゅうりする
- 口笛を ふくと遠くで 汽笛鳴り
- 助言への お礼の言葉 ていねいに

「これまでに習った漢字」  
「この本で習う漢字」  
 153 ページ  
 148 ページ

5

作り方

- ① どの漢字を使うかを決める。
- ② 漢字の読み方一つ一つについて、その読み方を使った言葉を集める。
- ③ 音読みを使った言葉と、訓読みを使った言葉を一つずつ使って、ひとつながりの文を考える。
- ④ リズムを整えて、かんせい。

五・七・五は、  
リズムがよい  
のじゃ。



5

○礼 レイ ○口笛 クビエ ○寺 ジ ○院 イン ○宮 ミヤ ○大 ダイ ○工 ク ○日記帳 チヨウ  
○丁 チヨウ ○昼食 チユウシキ

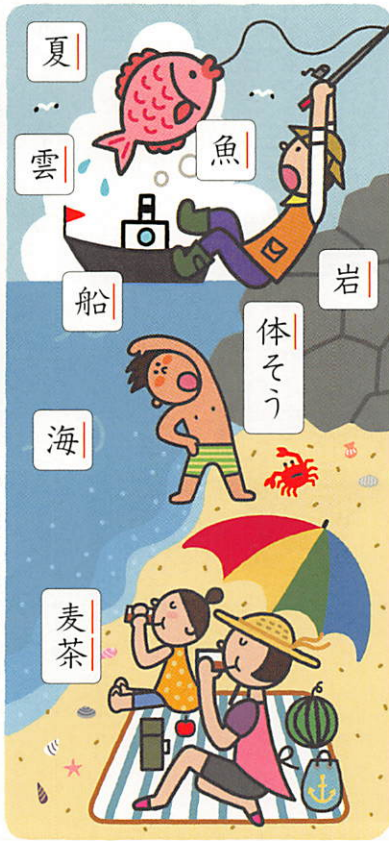




# 漢字の広場

2年生で  
習った漢字

## 6



絵の中の人になりきって、それぞれのきせつでどんなことをしたかを  
書きましょう。修飾語しゅうしきごを使って、まわりの様子もくわしく表しましょう。  
へれい） わたしは、春に、友だちと野原へピクニックに出かけました。  
空は、すっきりと晴れ、あたたかな風がふいていました。



読む

読んで感想をもち、つたえ合おう

# ありの行列

4

ありが行列を作る様子を、見たことはありますか。ありの行列についての研究が書かれた文章を読みましょう。どんなことが書かれているでしょうか。

これまでの学習

 段落とその中心をとらえる

(言葉で遊ぼう・こまを楽しむ) …………… 上 58 ページ

 話題と、れいの書かれ方をとらえる

(すがたをかえる大豆) …………… 49 ページ





# ありの行列

大滝 哲也 文  
おおたき てつや

安田 尚樹 絵  
やすだ ひさき

夏になると、庭や公園のすみなどで、ありの行列を見かけることがあります。その行列は、ありの巣<sup>す</sup>から、えさのある所まで、ずっとつづいています。ありは、ものがよく見えません。それなのに、なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。

アメリカに、ウイルソンという学者がいます。この人は、次のような実験<sup>けん</sup>をして、ありの様子

5



○庭<sup>にわ</sup>  
○研<sup>ケン</sup>  
○究<sup>キョウ</sup>



をかかさつしました。

はじめに、ありの巣から少しはなれた所に、ひとつまみのさとうをおきました。しばらくすると一ぴきのありが、そのさとうを見つけてました。これは、えさをさがすために、外に出ていたはたらきありです。ありは、やがて、巣に帰っていきました。すると、巣の中から、たくさんのはたらきありが、次々と出てきました。そして、列を作って、さとうの所まで行きました。ふしぎなことに、その行列は、はじめのありが巣に帰るときに通った道すじから、外れていないのです。

10

5

•外れるはず



次に、この道すじに大きな石をおいて、ありの行く手をさえぎってみました。すると、ありの行列は、石の所でみだれて、ちりぢりになってしまいました。ようやく、一ぴきのありが、石の向こうがわに道のつづきを見つけました。そして、さとうに向かって進んでいきました。

そのうちに、他のありたちも、一ぴき二ぴきと道を見つけて歩きだしました。まただんだんに、ありの行列ができていきました。目的地てきに着くと、ありは、さとうのつぶを持って、巣に帰っていきました。帰るときも、行列の道すじはかわりません。ありの行列は、さとうのかたまり

10

5



•行く手

がなくなるまでつづきました。

これらのかんさつから、ウイルソンは、はたらきありが、地面に何か道しるべになるものをつけておいたのではないか、と考えました。

そこで、ウイルソンは、はたらきありの体の仕組みを、細かに研究してみました。すると、ありは、おしりのところから、とくべつのえきを出すことが分かりました。それは、においのある、じょうはつしやすいえきです。

この研究から、ウイルソンは、ありの行列のできるわけを知ることができました。

はたらきありは、えきを見つけると、道しる

10

5



•細か



べとして、地面にこのえきをつけながら帰るの  
です。他のはたらきありたちは、そのにおいを  
かいで、においにそって歩いていきます。そし  
て、そのはたらきありたちも、えきを持って  
帰るときに、同じように、えきを地面につけな  
がら歩くのです。そのため、えきが多いほど、  
においが強くなります。

このように、においをたどって、えきの所へ  
行ったり、巣に帰ったりするので、ありの行列  
ができるというわけです。

10

5



大滝 哲也

一九二六〜二〇二一

年。東京都生まれ。

動物学者。とくに、

昆虫について研究し

ていた。

## もつと読もう

文章を読んで、もつと知りたいことが出てきたときは、他のしりょうを読むと明らかになることがあります。ここでは、「ありの行列」にかかわる、二つの文章を読んでみましょう。あなたの知りたいことは書かれていますか。

● においのある、とくべつのえきを出すのは、えきを持って帰るときだけか。

ありは、道しるべになる、においのあるえきだけでなく、他にもいくつかの、においのあるえきを出して、なかまとつたえ合っています。

たとえば、てきなどのきけんが近づいていることを知らせるときに出すものや、なかまを集めるために出すものなどがあります。

● ちがう巣にすむ、同じしゆるいのありの行列が交わると、ありはまよわないのか。

同じしゆるいのありは、道しるべとなるえきのおいも同じです。しかし、道しるべのそばには、同じ巣のなかまがつけたえきだと分かる、べつのおいものこっています。そのにおいによって、なかまのこした道しるべをたどることができます。ただ、ときにはまちがってしまふこともあるようです。

(やまおかりょうへい  
山岡亮平 かんしゅう)

まじ  
• 交わる

山岡 亮平

一九四七年、京都府生まれ。応用昆虫学者。



見通しをもとう

## 読んで感想をもち、つたえ合おう

- ・ 事がらや、せつめいのつながりを表す言葉に気をつけましょう。
- ・ 読んだ感想を友だちとつたえ合い、自分と同じところやちがうところを見つけましょう。

### とらえよう

- 「ありの行列」は、「はじめ」「中」「終わり」の組み立てで書かれた文章です。
- 文章全体の「問い」をたしかめましょう。
- それに対する「答え」の部分を見つけましょう。どの言葉や文で、それが分かりますか。
- 「中」を、段落どうしのつながりに気をつけて読み、ウイルソンの研究をたしかめましょう。

1

2

### ふかめよう

- 次の点から、「ありの行列」に書かれていることを短くまとめましょう。
- ウイルソンは、どのように研究を進めたのか。

10

5

#### 1 「問い」の見つけ方

- ・ 文の始まりや終わりの書かれ方に目を向け、「問い」の書かれた文を見つける。

#### 2 つながりを考えるとき

- ・ 次の言葉に気をつけて読みましょう。
- ・ こそあど言葉
- ・ 段落のはじめの言葉

#### 3 短くまとめるために

- 「ウイルソンの研究の進め方」が書かれた段落や、「ありが行列を作る仕組み」が書かれた段落をさがして、大事な言葉や文を見つけましょう。

10

5





## ふりかえろう

- 知る
- 読む
- つなぐ

段落と段落のつながりを考えるとき、どの言葉に着目しましたか。  
 友だちの感想を読んで、どんな新しい見方や考え方に会いましたか。  
 同じ話題や事かんがらに關係する文章をいくつか読むことのよさは、何だと思いましたか。



## ひろげよう

●書いた文章を、友だちと読み合いました。そして、自分と同じところやちがうところを見つけて、つたえ合いました。

10

## まとめよう

●「ありの行列」と、「もっと読もう」(101ページ)を読んで、引きつけられたことや、もっと知りたいと思ったこと、考えたことを文章に書きましよう。

4

5

●「ありが行列を作る仕組み。」

●「ありの行列」には、「——ました。」で終わる文と、「——です。」——ます。」で終わる文があります。どのように使い分けられていると思いますか。

3

## 4 感想のれい

わたしは、「ありの行列」を読んで、ありがとくべつなえきを出すことに引きつけられました。ありたちが、えきのおいをかいて歩くことで、行列ができるのだそうです。

わたしは、もし行列が、他の巢のありのものと重なったらどうなるんだろうと、ぎもんに思いました。すると、「もっと読もう」に、同じ巢のなかまだと分かるにおいがあると書かれていました。

今度、もっとくわしく調べてみたいと思います。

10

5



たいせつ

せつめいする文章を読んで、感想をつたえ合う

- せつめいする文章を読むときには、次のことを見つげながら読むとよい。
- はじめて知っておどろいたこと
- もっと知りたいと思ったこと
- 読んだ感想をつたえ合うときには、自分の考えと同じところやちがうところに着目して聞く。



いかそう

感想を聞くときは、自分の考えとくらべながら聞きましょう。

10

5

研

ケン

究

キユウ

庭

テイ  
にわ

この本、読もう

科学読み物を読むと、虫や植物など、さまざまなもののふしぎを知ることができます。



なぜ？ どうして？ 科学のお話 3年生  
生き物やうちゅう、食べ物などのふしぎがつまっている本です。

5



まちぼうけの生態学  
筆者は、見事なかりをするアカオニグモのくらす草むらに出かけて、行動や様子をかんさつしました。

10



むしごぶ みつけた  
木のえだについた実のようなものは、葉のうらの風船みたいなもの。中には、何が入っているのでしょうか。

15



156  
ページ

# つたわる言葉で表そう

自分がたいけんしたことや、そのときに感じたことをつたえるとき、「すごかった」「おもしろかった」。だけでは、何がどうすごかったのか、おもしろかったのが相手につたわりません。ここでは、つたえたいことを言葉で表すことについて、考えてみましょう。

くわしく思いえがく

田中さんが、運動会の感想を書きました。①と②では、どちらのほうが、田中さんの気持ちに分かりますか。それは、どうしてでしょう。





① 運動会は、がんばれたからよかった。

② リレーで走っているとき、友だちのおうえんする声が聞こえてきた。  
苦しかったけれど、さいごまで全力で走り、一等になれてよかった。

①は、何をどうがんばって、どうよかったのかがよく分かりません。いっぽう、②は、田中さんがどんな様子や気持ちだったのかをそうぞうできます。つまり、つたえたいことを、相手が思いえがけるように書くと、つたわるのです。

そのためには、いちばんつたえたい場面について、くわしく思い出すことが大切です。「だれが」「いつ」「どこで」「だれ（何）と」「どうして」「どのように」を考えるとよいでしょう。これらを全て入れるひつようはありません。このような見方をきっかけにして、つたえようとするのをくわしく思い出して、言葉で表すようにしましょう。

10

5



## 言葉をえらび

話したり、文章を書いたりするときには、自分の気持ちや表したい様子に合う言葉をえらびましょう。

使える言葉が多いと、よりぴったり合う言葉をえらべるようになります。言葉をふやすきっかけはいろいろとあります。新しい言葉を知ったら、使ってみましょう。

「言葉のたから箱」  
157ページ

友だちの文章を手がかりに



「かんげきする」って、「うれしい」より、感動がったわるね。

辞典や本などで調べていて



「はんしゃ」って、光がはね返ることを表す言葉なんだ。

物語を読んでいて



「湖のほとり」って、すてきな言い方だな。

湖みづうみ

一等トウ全カリョウ

何かを言葉で表すとき、自分の気持ちや表したい様子にぴったり合う言葉を使えるようになると、相手によりよくつたわります。「言葉を使えらぶ」ということは、自分にとっても相手にとっても大切なことなのです。



### 相手につたわる文章を書こう

冬休みの出来事とそのときの気持ちを、二百字で書きましょう。

- ① 読む人が、様子や気持ちを思いえがけるように、文章を書く。
- ② 書き終わったら、ないようがつたわるような題名を考える。
- ③ 友だちと読み合って、よくつたわる部分とそうでない部分を教えてもらう。友だちの文章を読むときには、どんな言葉で表しているのかに注意する。

等

トウ  
ひとしい

湖

コ  
みずうみ

注

チュウ  
そとぐ





書く


しようかいして、感想をつたえ合おう

## これがわたしのお気に入り

一年間、さまざまな学習をしてきました。国語や図画工作などで作った作品も、たくさんありますね。がんばった作品やお気に入りのお作品の中から一つをえらび、理由とともにしようかいする文章を書きましょう。



● たしかめよう

「三年上までの学びをたしかめよう」 6ページ

● 学習の進め方

決めよう  
集めよう

1 作品をえらび、くわしく書き出す。

組み立てよう

2 組み立てをたしかめる。

書こう

3 しようかいする文章を書く。

つなげよう

4 感想をつたえ合う。

● ふりかえろう

**1** 作品をえらび、くわしく書き出そう。

一年間で、どんな作品を作りましたか。友だちとふり返ってみましょう。



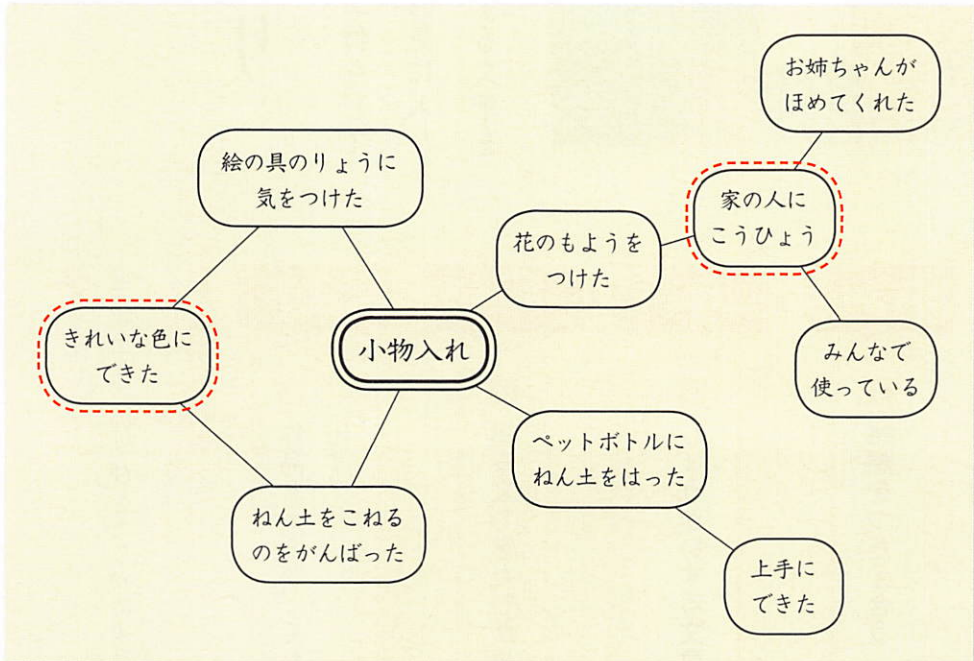
しょうかいしたい作品をえらんだら、その作品について、くわしく書き出します。

- くふうしたところ、がんばったところ
- 自分やまわりの人の感想

書き出したら友だちに見せ、もっと知りたいところや、きょうみのある部分をきいてみましょう。

5

■高山さんが書き出したらしい



家でどんなふうに使っているのか、知りたいな。



## 2 組み立てをたしかめよう。

112ページのような組み立てで、しょうかいする文章を書きます。

組み立てにそって、書きたいことをメモしておきましょう。

## 3 しょうかいする文章を書こう。

作品のせつめいとしょうかいしたい理由が、読む人に分かりやすいように、段落だんの分け方やせつめいのしかたを考えて書きましょう。

写真や絵を入れる場合は、どこにおけば分かりやすいかも考えましょう。

10

5

### ■高山さんの組み立てメモ

えらんだ作品

図工で作った小物入れ

作品のせつめい

- ざいりょう ペットボトル、ねん土、
- 作り方 絵の具
- えんぴつを入れる。

しょうかいしたい理由

- ① きれいな色にできた。
  - 絵の具を少しずつふやした。
  - よくこねた。
- ② 家の人にも大こうひょうだった。
  - お姉ちゃんの言葉。
  - 電話の近くにおいて、みんなで使っている。

15

10

5

◆お姉ちゃんねえ



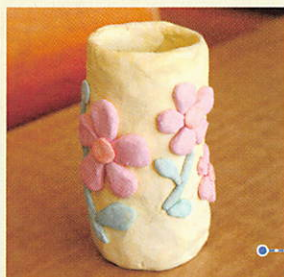
題名

# 花もようが大こうひょう

高山 みお

えらんだ作品

わたしのお気に入りの作品は、図工の時間に作った小物入れです。



作品のせつめい

絵の具をまぜたねん土を、ペットボトルにはって作りました。細長いので、えんぴつやペンを入れるのに使えます。

しょうかいしたい理由

この作品をしょうかいしたい理由は、二つあります。

一つは、ねん土をきれいな色にできたことです。ねん土にまぜる絵の具が少ないと、色がうすくなります。反対に、多すぎるとこくなってしまいます。少しずつ絵の具をふやして、自分の思ったとおりの色にしました。それから、全体が同じ色になるまで、ねん土をよくこねました。

もう一つは、家の人にも大こうひょうだったことです。持って帰ると、お姉ちゃんが、「花のもようがかわいいね。」と言ってくれました。えんぴつやペンを入れて電話の近くにおいたら、みんなが使ってくれています。

5

10

15

20

○反  
対

#### 4 感想をつたえ合おう。

書き終わったなら、しょうかいする文章を読み合いましたよ。文章のよいところや、分かりやすいところを、つたえ合いましょ。

##### ■書き方について



理由を「一つは」「もう一つは」と書いているのが、分かりやすかったです。

##### ■ないようについて



家の人に使ってもらえて、高山さんがうれしく思っていることがつたわってきました。



#### ふりかえろう

- 知る
- 書く
- つなぐ

どんなことを理由にして、しょうかいしたい作品をえらびましたか。  
友だちの感想から気づいた、自分の文章のよいところはどこですか。  
文章について感想をつたえ合うときには、どんなことに気をつけたいですか。



たいせつ

#### 感想をつたえ合う

● ないようや書き方について、どう思ったのかをくわしくつたえる。

● 自分の文章に対する感想を知ると、ないようや書き方のよいところがよく分かる。



いかそう

自分や友だちの文章から見つけたよいところを、次に書くときにいかしましょう。

反

ハシ  
そる  
そらす



156  
ページ

▶ 次の言葉を、コンピュータに入力してみましょう。

- ちらし                      • しゃかい                      • はなぢ
- ほんをかう                • こうつう                      • にっき

2 コンピュータでは、入力した文字を、漢字やかたかなにして表すこともできます。このことを、「へんかん」といいます。

① へんかんするとき、同じ音の言葉がいくつか出てくることがあります。たとえば、「きしゃ」をへんかんしようとする、「記者」「帰社」「汽車」などが出てきます。その中から、使いたいものをえらびます。<sup>10</sup>

1	記者
2	帰社
3	汽車
4	きしゃ
5	キシヤ

② のばす音があるかたかなの言葉は、

を打ち、へんかんします。

「N O - T O」→ノート

▶ 次の言葉をコンピュータに入力して、へんかんしてみましょう。

- クラス                      • ソース                      • ジュース
- 電波                      • 勉強                      • 放送

コンピュータによっては、ちがう打ち方で入力するものがあります。たしかめて使いましょう。

○打う                      • 帰キ   電   ○勉ベ   ○放ホ  
つ                      社   ○波バ   強   送

打   波   勉                      放  
う   な   ベ                      は

ほ   は   は   は  
う   は   な   は  
る   な   な   な  
る   れ   す



# 言葉 コンピュータのローマ字入力



1 キーボードを使って、コンピュータに文字や記号を入れることを、「入力」といいます。 A M E とキーを打つと、コンピュータの画面に、平がなで「あめ」と出ます。

① 「し」「ち」「ふ」など、ローマ字での書き方が二つあるものは、どちらの打ち方でも入力することができます。 5

「S I」「S H I」→し 「T I」「C H I」→ち

「H U」「F U」→ふ 「S Y A」「S H A」→しゃ

「T Y A」「C H A」→ちゃ

② 「ぢ」「づ」「を」「ん」などは、ふつう、次のように打ちます。

「D I」→ぢ 「D U」→づ 10

「W O」→を 「N N」→ん

③ のばす音は、平がなで書かれたとおりに打ちます。上巻で学<sup>かん</sup>習したローマ字の書き表し方とはちがうので、注意しましょう。

「K U U K I」→くうき（書き表し方「kûki」）

④ 「きっぷ」などの「っ」（つまる音）は、「っ」の次の音のはじめの文字を重ねて、打ちます。 15

「K I P P U」→きっぷ



話す・聞く

つたえたいことを、理由をあげて話そう

# わたしたちの学校じまん

あなたの学校のじまんしたいことは何ですか。グループで一つえらんで、発表しましょう。どのように理由を話せば、じまんしたいもののよさが相手につたわるかを考えて、組み立てや話し方をくふうしましょう。



● たしかめよう

「三年上までの学びをたしかめよう」  
5ページ

● 学習の進め方

決めよう  
集めよう

- 1 じまんしたいことを決める。
- 2 理由を考えて、しりょうを集める。

じゅんびしよう

- 3 組み立てを考え、発表げんこうを作る。

話そう  
聞こう

- 4 練習をして、発表会を開く。

つなげよう

- 5 発表会の感想をつたえ合う。

● ふりかえろう

## 1 じまんしたいことを決めよう。

学校のじまんしたいことを、グループで一つ決めましょう。発表する相手や目的<sup>てき</sup>などをたしかめて、それに合ったものをえらびます。

## 2 理由を考えて、しりようを集めよう。

グループで、じまんしたい理由を出し合いましょう。相手につたわりやすいかどうかを話し合って、発表するものをえらびます。

理由が決まったら、発表で見せるしりようを集めましょう。じまんしたいことと、その理由をよりよくつたえるために、じゅんびしましょう。

### ■発表する相手や目的などのれい

- 発表する場…学習発表会
- 発表すること…学校のじまん
- 目的…わたしたちの学校のよいところを知ってもらうため
- 相手…ちいきの方、家の人
- 時間…一グループ三分
- 場所…教室

「にっこにこ広場」は、おにごっこをするのにちょうどいい広さだよね。

そうだね。でも、ちいきの方には、つたわりにくい理由かもしれないな。





### 3 組み立てを考え、発表げんこうを作ろう。

119ページのれいをさんこうに組み立てを考え、ぶんたんして発表げんこうを作りましょう。聞き手の立場になって、つたえ方を決めましょう。

つたえたいことが、はつきり分かるかな。



じまんしたいことの理由になつて  
いるかな。



見せるしりようは、  
写真・絵・図のどれ  
にしよう。



### 4 練習をして、発表会を開こう。



会場の広さや聞き手、発表のないように合わせて、声の強弱や速さ、調子、間の取り方、言葉づかいをくふうしましょう。練習する中で気づいたことは、発表げんこうに書きくわえたり、書きかえたりしましょう。

#### ■発表げんこうのれい

「にここ広場」は、体育そうじの横にある広場です。毎日たくさんの人が遊ぶ、  
←大きな声で、はつきりと  
「にここ広場」の毎日のそうじは、  
この写真を見てください。(間を取る)  
三年生の仕事です。夏には、みんなで草  
わたしたち

●正門 セイ ハヤ 速さ

#### ■話し方のくふうのれい

- いちばんつたえたいところは、強く言う。
- 相手の様子を見て、分かりにくい言葉は、せつめいしたり、言いかえたりする。
- しりようを見る時間を取ったり、とくに見てもらいたいところを指さしたりする。

全員

わたしたちがじまんしたいのは、「にっこにこ広場」です。  
←ふだんの広場の写真

「にっこにこ広場」は、正門の近くにある広場です。

毎日たくさんの人が遊ぶ、学校でいちばん人気のある場所です。わたし

たちが「にっこにこ広場」をじまんしたい理由は、二つあります。

一つ目は、←大きな声で、はっきりと気持ちのよさです。←ゆっくり話すしばふが植えられているので、夏はずし

く、冬はあたたかく感じます。また、しばふのおかげで転んでもいたくない

ので、←明るい声で思いっきり遊べます。そして、←ゆっくり話すまわりに木や花があるので、きせつを

感じるができます。

二つ目は、そうじや手入れがされていることです。「にっこにこ広場」の毎日

のそうじは、わたしたち三年生の仕事です。←草取りの写真この写真を見てください。←間を取る夏に

は、みんなで草取りをするなど、しばふの手入れもてつだいます。←ゆっくり話すちいさの

みなさんにも、きれいな広場を見てもらいたいです。

このように、←大きな声で、はっきりと「にっこにこ広場」はわたしたちのじまんです。これからも、

←ゆっくり話すいつも気持ちがよく、みんながえがおになれる場所にしていきたいです。そ

のために、←ゆっくり話すしばふや草花などを大切にし、そうじをがんばりたいと思います。

はじめ

〈自分たちの考え〉

- ・じまんしたいもの
- ・そのせつめい

中

〈理由〉

- ・じまんしたい理由

終わり

〈自分たちの考え・まとめ〉

- ・じまんしたいものをくり返す
- ・まとめ



## 5 発表会の感想をつたえ合おう。

発表会をふり返り、よかったところをつたえましょう。

### ■組み立てについて

じまんしたいものを、はじめにはつきり話していたので、話の中心が分かりやすかったです。



### ■話し方について

ちいきの方でも広場の様子が思いうかぶよう、ゆっくり話していました。



### ふりかえろう

- 知る
- 話す・聞く
- つなぐ

聞き手や目的、ないように合わせて、どんな話し方のくふうをしましたか。  
分かりやすくせつめいするために、どのような組み立てを考えましたか。  
何かをせつめいするとき、友だちのどんなくふうをまねしたいですか。



たいせつ

相手や目的を考え、理由をあげて話す

### 〈話し方〉

- 聞き手を見て、様子をたしかめる。
- 声の調子や強弱などをくふうする。

### 〈組み立て〉

- つたえたいことに合う理由やしりようをえらぶ。



ひかさう

何かをせつめいするときには、つたえたいことに合う理由を考えて話しましょう。

速

ソク  
はやい  
はやめる  
はやまる



156  
ページ





読む

登場人物について、話し合おう

# モチモチの木

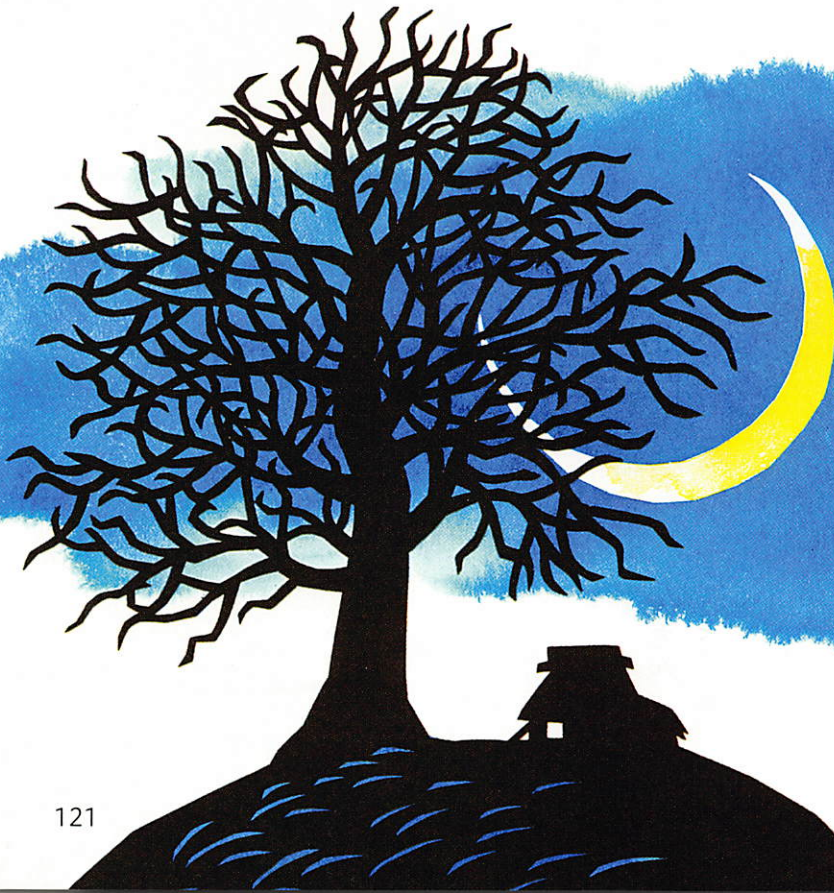
5

「モチモチの木」とは、どんな木なのでしょう。この物語には、「豆太<sup>まめた</sup>」という男の子が出てきます。「豆太」は、どんな人物でしょうか。

これまでの学習

登場人物のへんかに気をつけて読む  
(まいごのかぎ) …………… 上 84 ページ

物語に対する感想をもつ  
(ちいちゃんのかげおくり) …………… 28 ページ



# モチモチの木

さいとう りゆうすけ  
斎藤 隆介 作

たきだいら じろう  
滝平 二郎 絵

## おくびよう豆太

全く、豆太ほどおくびようなやつはない。もう五つにもなったんだから、夜中に、一人でせっちんぐらいに行けたっていい。

ところが、豆太は、せっちんは表にあるし、表には大きなモチモチの木がっ立っていて、空いっぱいのかみの毛をバサバサとふるって、両手を「わあっ」とあげるからって、夜中には、じさまについてってもらわないと、一人じゃしょうべんもできないのだ。

じさまは、ぐっすりねむっている真夜中に、豆太が「じさまあ。」って、どんなに小さい声で言っても、「しよんべんか。」と、すぐ目をさましてくれる。いっしょ

せっちん  
べんじよのこと。





にねている一まいしかないふとんを、ぬら  
されちまうよりいいからなあ。

それに、とうげのりょうし小屋に、自分  
とたった二人でくらしている豆太が、かわ  
いそうで、かわいかったからだろう。

けれど、豆太のおとうだって、くまと組  
みうちして、頭をぶっさかれて死んだほど  
のきもすけだったし、じさまだって、六十四  
の今、まだ青じしを追っかけて、きもをひ  
やすような岩から岩へのとびうつりだって、  
見事にやってのける。

それなのに、どうして豆太だけが、こん  
なにおくびょうなんだろうか――。

10

5

きもすけ  
どきょうのある人の  
こと。

青じし  
かもしかのこと。





やい、木い

モチモチの木ってのはな、豆太がつけた名前だ。

小屋のすぐ前に立っている、でっかいでっかい木だ。

秋になると、茶色いぴかぴか光った実を、いっぱ

いふり落としてくれる。その実を、じさまが、木う

すでついて、石うすでひいてこなにする。こなにし

たやつをもちにこね上げて、ふかして食べると、

ほっぺたが落っこちるほどうまいんだ。

「やい、木い、モチモチの木い、実い落とせえ。」

なんて、昼間は木の下に立って、かた足で足ぶみし

て、いばってさいそくしたりするくせに、夜になる

と、豆太はもうだめなんだ。

木がおこって、両手で、「お

10

5



化けえ。」って、上からおどかすんだ。夜のモチモチの木は、そっちを見ただけで、もう、しよんべんなんか出なくなっちまう。

じさまが、しゃがんだひ

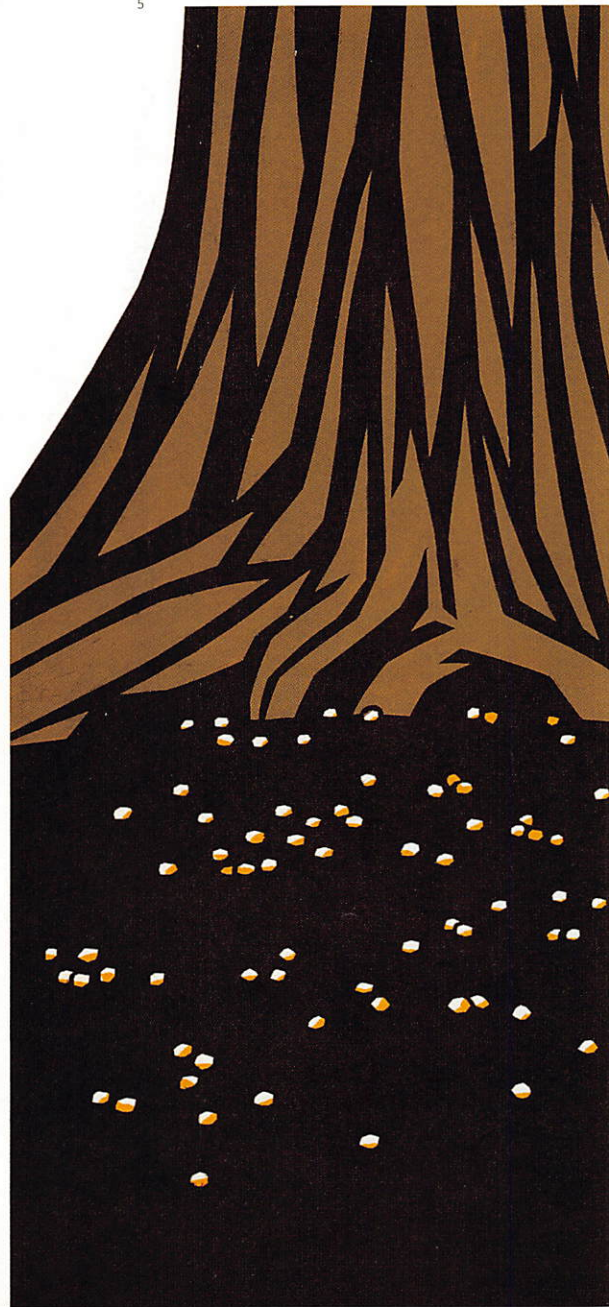
ざの中に豆太をかかえて、

「ああ、いい夜だ。星に手がとどきそうだ。おく山じゃあ、しかやくまめらが、

鼻ぢようちん出して、(ねむりこけて)ねっこけてやがるべ。それ、シイーツ。」

って言うってくれなきゃ、とつても出やしな。しないでねると、あしたの朝、とこの中がこうずいになっちまうもんだから、じさまは、かならずそうしてくれるんだ。五つになって「シー」なんて、みっともないやなあ。

でも、豆太は、そうしなくっちゃだめなんだ。



霜月しもつき二十日のばん

そのモチモチの木に、今夜は、灯ひがともるばんなんだそうさ。じさまが言った。

「霜月の二十日のうしみつにやあ、モチモチの木に灯がともる。起きてて見てみる。そりゃあ、きれいさ。おらも、子どものころに見たことがある。死んだおまえのおとうも見たそうさ。山の神様のお祭りなんだ。それは、一人の子どもしか、見ることはできねえ。それも、勇気ゆうのある子どもだけだ。」

「——それじゃあ、おらは、とつてもだめだ——。」

豆太は、ちっちゃい声で、なきそうに言った。だって、じさまもおとうも見たんなら、自分も見たかったけど、こんな冬の真夜中に、モチモチの木を、それも、たった一人で見に出るなんて、とんでもねえ話だ。ぶるぶるだ。

木のえだえだの細かいところにまで、みんな灯がともって、木が明るくぼうっとかがやいて、まるでそれは、ゆめみてえにきれいなんだそうさ。そして、豆太は、「昼間だったら、見てえなあ——。」と、そつと思つたんだが、ぶるぶる、夜

10

5

霜月  
十一月の古いよび名。

うしみつ

真夜中のこと。「うしみつ時」ともいう。

○神様かみ

◆二十日はつか



なんて考えただけでも、おしっこをもらしちまいそうだ——。

豆太は、はじめっからあきらめて、ふとんにもぐりこむと、じさまのたばこくさいむねん中に鼻をおしつけて、よいの口からねてしまった。

## 豆太は見た

豆太は、真夜中に、ひよっと目をさました。頭の上で、くまのうなり声が聞こえたからだ。

「じさまあつ。」

むちゅうでじさまにしがみつこうとしたが、じさまはいない。

「ま、豆太、心配すんな。じさまは、じさまは、ちょっとはら  
がいてえだけだ。」

まくら元で、くまみたいに体を丸めてうなっていたのは、  
じさまだった。

10

5



よいの口

日がくれてから、まだあまり時間がたっていないころ。

「じさまっ。」

こわくて、びっくらして、豆太はじさまにとびついた。けれども、じさまは、ころりとたたみに転げると、歯を食いしばって、ますますすぐくうなるだけだ。

「医者様をよばなくっちゃ。」

豆太は、小犬みたいに体を丸めて、表戸を体でふつとばして走りだした。

ねまきのまんま。はだしで。半はん道みちもあるふもとの村まで——。


外はすごい星で、月も出ていた。とうげの下りの坂道は、一面の

10

5







真っ白い霜で、雪みたいだった。霜が足にかみついた。足からは血が出た。豆太は、なきなき走った。いたくて、寒くて、こわかったからなあ。

でも、大すきなじさまの死んじまうほうが、もっとこわかったから、なきなきふもとの医者様へ走った。

これも、年よりじさまの医者様は、豆太からわけを聞くと、

「おう、おう——」。

と言って、ねんねこぼんでんに薬箱と豆太をおぶうと、真夜中のとうげ道を、えっちら、おっちら、じさまの小屋へ上ってきた。

10

5

#### 半道

やく二キロメートル。

ねんねこぼんでん  
赤ちゃんをせおうと  
きに、赤ちゃんをつ  
つむように着る、わ  
た入りのはんでん。

#### 薬箱ばこ



とちゅうで、月が出てるのに、雪がふり始めた。この冬はじめての雪だ。豆太は、そいつをねんねこの中から見た。

そして、医者様のこしを、足でドンドンけとばした。じさまが、なんだか死んじまいそうな気がしたからな。

豆太は、小屋へ入るとき、もう一つふしぎなものを見た。

「モチモチの木に、灯がついている。」









けれど、医者様は、

「あ、ほんとだ。まるで、灯がついたようだ。だども、あれは、とちの木の後ろにちようど月が出てきて、えだの間に星が光ってるんだ。そこに雪がふってるから、明かりがついたように見えるんだべ。」

と言って、小屋の中へ入ってしまった。だから、豆太は、その後は知らない。医者様のてつだいをして、かまどにまきをくべたり、湯をわかしたり(などして)なんんだり、いそがしかったからな。

弱虫でも、やさしけりや

でも、次の朝、はらいたがなおって元気になったじさまは、医者様の帰った後で、こう言った。

「おまえは、山の神様の祭りを見たんだ。モチモチの木には、灯がついたんだ。おまえは、一人で、夜道を医者様よびに行けるほど、勇気のある子どもだった



んだからな。自分で自分を弱虫だなんて思うな。人間、やさしささえあれば、やらなきゃならねえことは、きっとやるもんだ。それを見て、他人がびっくらするわけよ。は、は、は。」

——それでも、豆太は、じさまが元気になると、そのばんから、

「じさまあ。」

と、しょんべんにじさまを起こしたとき。



5

斎藤 隆介

一九一七〜八五年。

東京都生まれ。作家。

「ペロ出しチヨンマ」

「ユトムとヒ」など

の作品がある。



見通しをもとう

## 登場人物について、話し合おう

- せいかくを表す言葉や、気持ちを表す言葉に気をつけましょう。
- 「豆太」について考えたことを友だちとつたえ合い、考えを深めましょう。



語り手  
物語の地の文を語る人。

160ページ

### とらえよう

- 「豆太」と「じさま」はどんな人物でしょう。
- 語り手から見た「豆太」。
- 「じさま」から見た「豆太」と、「豆太」をそのように見る「じさま」。

### ふかめよう

- それぞれの場面での、「豆太」と「じさま」の行動や会話、様子をたしかめましょう。
- 「霜月二十日のばん」の場面の「豆太」と、「豆太は見た」の場面の「豆太」をくらべてみましょう。どんなところがちがいますか。

1

5

### 1 ノートのれい

おくびょう 豆太	場面 豆太	登場人物の行動や会話、様子
真夜中に、「じさまあ。」と小さい声で言う。	じさま	
		「しょんべんか。」と、すぐ目をさましてくれる。

### 2 話し合いのれい

話し合うときには、次のようなこともつたえましょう。

5



## ふりかえろう

- 知る
- 読む
- つなぐ

どのような言葉から、「豆太」と「じさま」のせいやくや気持ちをとらえましたか。  
 友だちと話し合って、登場人物への見方はどうかかわったり、深まったりしましたか。  
 物語を読むときには、人物のどのようなところに気をつけて読みたいですか。

## ひろげよう

- 「豆太」について、友だちと話し合いました。友だちの考えと自分の考えをくらべましょう。
- 「豆太」はどんな人物か。
- 「豆太」はかわったか。

## まとめよう

- 「豆太」は、どうしてモチモチの木の花の灯を見ることのできたのでしょうか。次のことをたしかめ、考えとその理由をノートに書きましょう。
- 「医者様」の言ったこと（132ページ2行目）
- 「じさま」の言ったこと（132ページ11行目）

## 2

でも、語り手は、「豆太」のことをおくびようだと言っています。さいごの場面でも、「豆太」は――。

ぼくは、「豆太」は勇気のある人物だと思います。なぜかというと、「豆太は見た」の場面で――。

- 「豆太」についての考えは、文章のどこから生まれているか。
- 自分のけいけんくらべて考えたことは何か。







登場人物の  
せいかくをとらえる

- 登場人物のせいかくは、次のようなことからとらえられる。
- その人物の会話や行動。
- 語り手や他の登場人物が、その人物について語る言葉。
- 他の人と見方を交流することで、人物に対する考えが深められる。



いかそう

物語を読んだら、友だちと交流して、登場人物や物語についての考えを深めましょう。

10

5

この本、読もう

齋藤隆介さんの本です。どんな人物が出てくるでしょうか。



**半日村**  
山が日をさえぎり、半日しか日の当たらない半日村。村に住む一平は、山の土をけずって運び始めます。

15



**花さき山**  
山で道にまよったあやは、一面にさく美しい花にびっくり。山ンばがそのひみつを教えてくださいました。

10



**ソメコとオニ**  
ソメコは五さいの女の子。オニにさらわれても平気で、ずっと遊びにさそいます。つかれたオニは――。

5

神  
シン

かみ

箱  
はこ

湯  
トウ



ひろく

# 学習を広げよう

「たいせつ」のまとめ……………138

インタビュー 知りたいことをきく……………142

本の世界を広げよう……………144

知ると楽しい「故事成語」……………146

これまでに習った漢字……………148

この本で習う漢字……………153

言葉のたから箱……………157



# 「たいせつ」のまとめ

三年生で学習する、大切なことをまとめていきます。  
 たしかめたり、他の学習ほかで使ったりしましょう。  
 できるようになったことを、どんな場面でいかしたいですか。  
 くらんに書きましょう。



三年上

話を聞いて、しつもんする

- 知りたいことについて、どのようにしつもんするとよいかを考える。 など

役わりやくわりにおうじて話し合う

39 ページ

- 次のことを考えながら話し合うと、話し合いが進みやすくなる。
- 話し合いの目的てきや進め方と、自分の役わり。
- どうやって決めるのか。
- 友だちの考えと同じところ、ちがうところ。 など

相手や目的を考え、理由をあげて話す

120 ページ

- 〈話し方〉
- 聞き手を見て、様子をたしかめる。
  - 声の調子や強弱などをくふうする。
- 〈組み立て〉
- つたえたいことに合う理由やしりょうをえらぶ。

10

5

こんな場面でいかそう







 三年上

あんないの手紙を書く

● 相手が来るためにひつようなことを考える。 など  
 組み立てを考えて、ほうこくする文章を書く

● つたえたいことを、ないようのまとまりに分ける。  
 ● 分かったことと考えたことをくべつして書く。 など

 55ページ

れいをあげて書く

● ないようのまとまりごとに、段落だんを分ける。  
 ● つたえたいことに合ったれいをあげる。

物語の組み立てを考えて書く

● 物語は、次のような組み立てて書く。

- ① 始まり
- ② 出来事出来事 (事件けん) が起おこる
- ③ 出来事 (事件) が解決かいする
- ④ むすび など

 85ページ

感想をつたえ合う

● ないようや書き方について、どう思ったのかをくわしくつたえる。

 113ページ

● 自分の文章に対する感想を知ると、ないようや書き方のよいところがよく分かる。

15

10

5

 こんな場面でいかそう





学習の進め方

ひろげる

まとめる

ふかめる

とらえる

### せつめいする文章

📖 三年上

段落とその中心をとらえる

- 一つの段落には、それぞれ、ひとまとまりのないよう  
が書かれている。 など

話題と、れいの書かれ方をとらえる

📖 49ページ

- 題名や「はじめ」から、話題をたしかめる。

- 「中」のれいと話題とのつながりをとらえ、それぞれの段落の  
役わりやくわりを考える。

- れいをあげるじゅんじょや写真の使い方など、筆者しやのれいの  
書き方に気をつける。

せつめいする文章を読んで、感想をつたえ合う

📖 104ページ

- 読んだ感想をつたえ合うときには、自分の考えと同じところ  
やちがうところに着目して聞く。 など

### 物語・読書

📖 三年上

場面のようすや、登場人物の気もちをそうぞうする

- したことや言ったこと、気もちをあらわす言葉に気を  
つけてそうぞうする。

登場人物のへんかに気をつけて読む

〈物語〉



こんな場面でいかそう

〈せつめいする文章〉

15

10

5

● どんな出来事がおこったか、そのときの登場人物の気持ちや様子はどのような言葉に表れているか、出来事がおこる前と後とでどうか変わったかをたしかめる。

### 図鑑や科学読み物を読む

● 図鑑や科学読み物で何かを調べるときは、目次やさくいんを使うとよい。 など

### 物語に対する感想をもつ

↓ 28ページ

● 場面と場面をくらべて、人物の様子や出来事のちがいの理由について考える。

● 物語をだれの立場から読み、出来事をどうとらえるかによって、物語に対する感想はちがってくる。

### 組み立てをとらえる

↓ 80ページ

● 民話や昔話を読むときには、組み立てをとらえながら読む。

① 始まり ② 出来事（事件）が起こる

③ 出来事（事件）が解決する ④ むすび など

### 登場人物のせいかくをとらえる

↓ 136ページ

● 登場人物のせいかくは、次のようなことからとらえられる。

● その人物の会話や行動。

● 語り手や他の登場人物が、その人物について語る言葉。 など

〈読書〉





# インタビュー 知りたいことをきく

物事について調べる方法ほうの一つに、「インタビュー」があります。これは、人に会って、知りたいことについて話をきくことです。インタビューの方法をたしかめましょう。

## インタビューをするまで

1—インタビューをする相手を決める。

調べたいことに合わせて、インタビューをする人を決める。

町のためにはたらく人について、調べて発表することになった。消防士しょうぼうしさんにインタビューしよう。



## インタビューをするとき

4—インタビューをする。

決めた日時に会いに行き、インタビューをする。

高山　こんにちは。わたしは、ひかり小学校三年の高山です。今、町のためにはたらく人について調べています。よろしくおねがいします。いつも聞きたいことが五つ

- あいさつをして、名前を言う。
- 何をききにきたのかをつたえる。



## 2—しつもんすることを考える。

ききたいことを考え、メモしておく。

三年一組 高山みお

インタビューをする相手

—ひかり消防しょの方

- ① 何時から何時まではたらいっているか。
- ② 出勤<sup>しゅつ</sup>にどのくらいの時間がかかるか。
- ③ たいへんなことは何か。
- ④ 仕事中に気をつけていることは何か。
- ⑤ 火事をふせぐために、わたしたちにできることは何か。

10

5

## 3—インタビューを申し込む。

インタビューをしたい相手におねがいを

し、相手の都合に合わせて日時を決める。

## 5—お礼<sup>れい</sup>をつたえる。

「ありがとうございました。」と、ていねいにお礼を言う。

あります。まず、はじめのしつもんです。何時から何時まではたらいていますか。

消防士の  
南さん  
わたしたちは交代<sup>たい</sup>で、二十四時間はたらいていますよ。

高山  
どのように交代しているの

ですか。

...

次のしつもんです。出勤には、どのくらいの時間がかかりますか。

10

消防士の  
南さん  
れんらくが来てから、一分で出勤します。

...

高山  
しつもんは、これで終わりです。

15

• メモをもとに、じゅんじょよくたずねる。

• 大事なことはメモを取<sup>と</sup>る。

• 分からないことは、たしかめる。

5

• 相手を見て、話を聞く。



# 本の世界を 広げよう



〓 わすれられない おくりもの



スーザン・バーレイ 作・絵  
おがわ ひとみ 訳  
小川 仁央 訳  
森のみんなは、かしこく  
てやさしいアナグマが大す  
き。アナグマは、みんなに  
おくり物をのこしてくれま  
した。

〓 アイヌのむかしばなし  
ひまなこなべ



アイヌは、北海道などに  
昔から住む人たちです。く  
まの神様の話を通して、ア  
イヌの人々の声に耳をすま  
せましょう。

萱野 茂文  
とい かや 絵

〓 おにぼう



友だちを助きたい。人間  
となかよくしたい。おにぼ  
うは、大雨から村の田んぼ  
をすくうために、大岩を動  
かしました。

くすのきしげのり 作  
いづみ ひでお  
伊藤 秀男 絵

〓 火曜日のごちそうはヒキガエル



ラッセル・E・エリクソン 作  
ローレンス・テイ・フィオリ 絵  
佐藤 涼子 訳  
ミミズクにつかまったヒ  
キガエルのウオトン。次  
の火曜日はミミズクのたん  
じょう日で、ごちそうは――。

〓 かあちゃん  
取扱説明書



ろうるさくてこわいかあ  
ちゃんを、思うようにそう  
じゅうしたい。トリセツを  
作ったらうまくいくかな。  
かあちゃんを研究中。

いとう みく 作  
さとう まさこ 絵  
佐藤 真紀子 絵

〓 読書マラソン、  
チャンピオンはだれ？



ひと月で、全校のみんな  
が二千さつの本を読めたら、  
校長先生がひげをそる。読  
書マラソンの始まりです。

クラウド・アミルズ 作  
わかばやし ちづる 訳  
若林 千鶴 訳  
ほりかわ りまこ 絵  
堀川 理万子 絵

〓 キュツパのはくぶつかん



オーシル・カンスタ・ヨンセン 作  
ひだに れいこ 訳  
なんでも集めてしままく  
せがある、丸太の男の子  
キュツパ。集めすぎて、し  
まう場所がなくなつた  
キュツパは――。

## 科学・ちしき

〓 たのしく読める  
世界のすごい歴史人物伝



世界のれきしをつくつた  
二十五人をしようかいして  
います。どの「きみへの  
メッセージ」が、心にのこ  
るでしょうか。

いとう 純郎 監修  
伊藤 純郎 監修





① 身近なもののがい

ソーセージとウインナー。ものさしと定規。にているけれど、どこがちがう。そのちがいが見つかる楽しい本です。

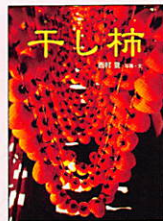
深谷 圭助 監修



ダンゴウオの海

二〇一一年三月に起きた東日本大震災。津波でかわってしまった海にも、新たな命が生まれています。

鍵井 靖章 写真・文



干し柿

とてもあまくておいしい干し柿。もともとは、しぶい柿から作るのです。どのようにしてあまくするのでしょうか。

西村 豊 写真・文

詩・言葉



カタカナ ダイボウケン

本やノートを開いたままにしておくと、そこに書かれた文字たちが夜中おしゃべりしたり、とび出したりします。

宮下 すぐか 作  
みやざき ひろかず 絵



ぼくの自然観察記  
ロゼットのたんけん

地面にはりつくように葉を広げた草の形を「ロゼット」とよびます。空き地や道などで見つけてみましょう。

おくやま ひさし



生き物たちの冬ごし図鑑  
昆虫

寒い時期に、すがたが見えなくなる昆虫たち。いったい、どこへ行ってしまったのでしょうか。



十二支のことわざえほん

ねずみ、牛、とら……。昔方角や時こくなどを表すのに使われた、十二の動物が出てくることわざを集めた絵本です。

高島 純



おいしい根っこ

サツマイモ、ニンジン、ゴボウ——どれもおいしい根っこのなかまです。土の中を見てください。

中野 明正 編著  
根研究学会 協力  
小泉 光久 文  
堀江 篤史 絵



ふくはなにからできてるの?

見たりさわったりするだけで、今、あなたが着ている服が、何からできているのか分かるでしょうか。

佐藤 哲也 文  
網中 いづる 絵

読み終わった本には、 にしるしをつけましょう。

# 知ると楽しい「故事成語」

## 杞憂きゆう

### 意味

心配ばいしなくてもよいことを、むやみに心配すること。取りこし苦勞くろう。

### 言葉の由来

昔ちゆうごく、中国の杞ちゆうごくという国に、とても心配性しよくの人がいた。その人は、いつも天地がくずれ落ちてくるのではないかと心配し、ねることも食たべることまでできないほどだった。



10

5

いろいろな故事成語を知り、生活の中で使ってみましょう。

## 登竜門りゆうもん

### 意味

むずかしいが、そこをこえればせいこうし、出しゅつ世せできるという大切な場所。

### 言葉の由来

黄河かうが（中国の川）には、竜門りゆうもんという流れながの急きゆうな場所があり、コイがここを登ることができると、竜になるというてんせつがあつた。



10

5



## 蛇足だ

### 意味

ひつようなのないものをくわえることで、全体をだめにしてしまうこと。よけいなつけ足し。

### 言葉の由来

だれが蛇へびの絵をいちばん速はやくかけるか、きょうそうした。先にかきあげた人が、他ほかの人がまだかいているのを見て、調子に乗って、あまった時間で蛇に足をかき足した。すると、「蛇に足はない。」と言われて負けてしまった。



10

5

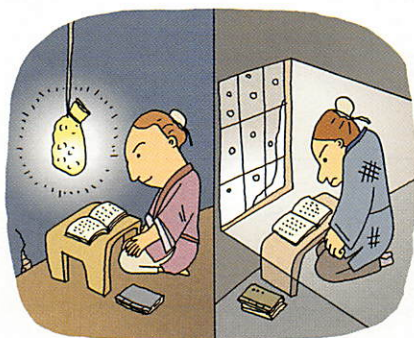
## 螢雪の功けいせつ

### 意味

苦勞して学問にはげむこと。また、そのせいか。

### 言葉の由来

まずしくて、明あかりをつけるための油を買えな  
い人が、夏なつには螢ほたるを集めて、その光で本を読んだ。  
同じようにべつのまずし  
い人は、冬に雪明ゆきあかりかりで  
本を読んだ。後のちに、どち  
らの人もりっぱな地位ちいに  
ついた。



10

5



# これまでに習った漢字

△は、これから習う読み方。( )は、小学校では習わない読み方。

□3 員 ⑩ イン	□2 引 ④ ひく ひける イン	□1 一 ① ひとつ イチ イチ	□3 意 ⑬ イ	□3 安 ⑥ やす イン	□3 悪 ⑪ わる アク (オ)アク	□2 夏 ⑩ なつ ゲカ △カ 読み方	—チェックらん —学年 —漢字 —画数			
□2 遠 ⑬ とおい エン (オン)	□2 園 ⑬ その エン	□1 円 ④ まる エン	□3 泳 ⑧ およぐ エイ	□2 雲 ⑫ くも ウン △ウ	□3 運 ⑫ はこぶ ウン	□1 雨 ⑧ あめ ウ	□2 羽 ⑥ はね ウ (ハ)	□1 右 ⑤ みぎ ウ △ユウ		
□1 下 ③ ゲカ した ゲカ	□3 温 ⑫ あたたか あたたかい あたたまる あたためる オン	□1 音 ⑨ ね オン (イン)	□3 屋 ⑨ や オク	□3 横 ⑮ よこ オウ	□1 王 ④ オウ	□1 か	□1 お			
□2 回 ⑥ まわす カ (エ)カイ	□2 画 ⑧ ガ △カク	□2 歌 ⑭ うた △カ うたう	□2 家 ⑩ いえ ケカ △カ	□2 夏 ⑩ なつ △カ (ゲ)カ	□2 科 ⑨ カ	□1 花 ⑦ はな カ	□2 何 ⑦ なん カ (ナ)カ	□1 火 ④ ひ カ (ホ)カ	□3 化 ④ ばかす ケカ △カ	
□2 楽 ⑬ たのしい ガク △ラク	□1 学 ⑧ まなぶ ガク	□2 角 ⑦ かど カク △カ	□2 外 ⑤ ほか そと ガイ (ゲ)ガイ △はずれる	□1 貝 ⑦ かい ガイ	□3 開 ⑫ あける ひらく ひらく カイ △カ エ	□2 絵 ⑫ エ △カイ	□3 界 ⑨ カイ	□2 海 ⑨ うみ カイ	□2 会 ⑥ あう カイ (エ)カイ	
□1 気 ⑥ ケキ	□2 顔 ⑮ かお ガ △カン	□2 岩 ⑧ いわ ガ △カン	□3 岸 ⑧ きし ガン	□2 丸 ③ まる まる まる △カン まるめる	□3 館 ⑮ やかた カン	□3 漢 ⑬ カン	□3 感 ⑬ カン	□2 間 ⑫ あいだ カン ケン	□2 活 ⑨ カツ	
□2 魚 ⑪ さかな ギョ △うお	□3 去 ⑤ さる キョ	□2 牛 ④ うし ギョ △キユウ	□3 球 ⑪ たま キユウ	□1 休 ⑥ やすまる やすまる やすまる キユウ	□2 弓 ③ ゆみ キユウ (キユウ)	□1 九 ② このつ ク キユウ	□3 客 ⑨ きゃく (カク)	□2 帰 ⑩ かえる △キ かえす	□2 記 ⑩ しるす △キ	□2 汽 ⑦ キ

空 (1) ⑧ △クウ  
 具 (3) ⑧ グ  
 区 (3) ④ ク  
 く  
 銀 (3) ⑭ ギン  
 金 (1) ⑧ △キン  
 近 (2) ⑦ キン  
 玉 (1) ⑤ △ギョク  
 局 (3) ⑦ キョク  
 教 (2) ⑪ キョウ  
 強 (2) ⑪ (キョウ)  
 京 (2) ⑧ (ケイ)

元 (2) ④ △ゲン  
 梟 (3) ⑨ ケン  
 見 (1) ⑦ ケン  
 犬 (1) ④ △ケン  
 月 (1) ④ ゲツ  
 決 (3) ⑦ ケツ  
 計 (2) ⑨ ケイ  
 係 (3) ⑨ ケイ  
 形 (2) ⑦ ケイ  
 兄 (2) ⑤ (ケイ)

公 (2) ④ (コウ)  
 工 (2) ③ △ク  
 口 (1) ③ △コウ  
 語 (2) ⑭ (ゴ)  
 後 (2) ⑨ △ゴ  
 午 (2) ④ ゴ  
 五 (1) ④ △ゴ  
 古 (2) ⑤ △コ  
 戸 (2) ④ △ト  
 こ  
 原 (2) ⑩ ゲン  
 言 (2) ⑦ △ゲン

高 (2) ⑩ △コウ  
 校 (1) ⑩ コウ  
 行 (2) ⑥ △コウ  
 考 (2) ⑥ △コウ  
 向 (3) ⑥ △コウ  
 光 (2) ⑥ △コウ  
 交 (2) ⑥ △コウ  
 広 (2) ⑤ △コウ

祭 (3) ⑪ サイ  
 才 (2) ③ サイ  
 左 (1) ⑤ △サイ  
 さ  
 今 (2) ④ (キン)  
 黒 (2) ⑪ コク  
 国 (2) ⑧ コク  
 谷 (2) ⑦ △コク  
 合 (2) ⑥ △カツ  
 号 (3) ⑤ ゴウ  
 港 (3) ⑫ コウ  
 黄 (2) ⑪ △コウ

市 (2) ⑤ △シ  
 四 (1) ⑤ よし  
 仕 (3) ⑤ △シ  
 止 (2) ④ △シ  
 子 (1) ③ シ  
 し  
 算 (2) ⑭ サン  
 山 (1) ③ ヤマ  
 三 (1) ③ ミツ  
 作 (2) ⑦ △サク  
 細 (2) ⑪ △サイ

自 (2) ⑥ △ジ  
 耳 (1) ⑥ △ミ  
 次 (3) ⑥ △ジ  
 寺 (2) ⑥ △ジ  
 字 (1) ⑥ △ジ  
 詩 (3) ⑬ シ  
 紙 (2) ⑩ シ  
 指 (3) ⑨ シ  
 思 (2) ⑨ △シ  
 姉 (2) ⑧ △シ  
 使 (3) ⑧ シ  
 糸 (1) ⑥ △イト  
 死 (3) ⑥ シ  
 矢 (2) ⑤ (ヤ)

□ <sub>1</sub> 手 ④ △シユ (たて)	□ <sub>2</sub> 弱 ⑩ ジヤク よわい よわる よわめる よわめる	□ <sub>1</sub> 車 ⑦ シヤ くるま	□ <sub>2</sub> 社 ⑦ シヤ △やしら	□ <sub>3</sub> 写 ⑤ シヤ うつす	□ <sub>3</sub> 実 ⑧ ジツ みもの	□ <sub>2</sub> 室 ⑨ シツ (むろ)	□ <sub>1</sub> 七 ② シチ なな ななつ	□ <sub>3</sub> 式 ⑥ シキ	□ <sub>2</sub> 時 ⑩ ジ とき	□ <sub>3</sub> 持 ⑨ モツ	□ <sub>3</sub> 事 ⑧ コト (ズ)
---	---	---------------------------------------	--	---------------------------------------	---------------------------------------	--	---	--------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------	---------------------------------------

□ <sub>2</sub> 春 ⑨ △シユン はる	□ <sub>1</sub> 出 ⑤ △シユツ でる だす	□ <sub>3</sub> 住 ⑦ ジユウ すむ	□ <sub>1</sub> 十 ② ジツ △と とお	□ <sub>3</sub> 集 ⑫ シユウ あつまる (つどう)	□ <sub>2</sub> 週 ⑪ シユウ	□ <sub>3</sub> 習 ⑪ シユウ ならう	□ <sub>3</sub> 終 ⑪ シユウ おわる	□ <sub>2</sub> 秋 ⑨ アキ △シユウ	□ <sub>3</sub> 拾 ⑨ シユウ ひろう	□ <sub>3</sub> 酒 ⑩ シユ さか	□ <sub>2</sub> 首 ⑨ △シユ くび
--	--	---------------------------------------	--	--	---------------------------------	--	--	--	--	--------------------------------------	---------------------------------------

□ <sub>2</sub> 場 ⑫ バ ジヨウ	□ <sub>1</sub> 上 ③ シヨウ (のぼる)	□ <sub>3</sub> 章 ⑪ シヨウ	□ <sub>3</sub> 商 ⑪ シヨウ (あきなう)	□ <sub>2</sub> 少 ④ シヨウ すくない すこし	□ <sub>1</sub> 小 ③ シヨウ ちいさい △おこ	□ <sub>3</sub> 助 ⑦ シヨ たすける (すけ)	□ <sub>1</sub> 女 ③ メ (おんな)	□ <sub>2</sub> 書 ⑩ シヨ かく	□ <sub>3</sub> 所 ⑧ シヨ ところ
--------------------------------------	--	---------------------------------	---	--	--	--	--	--------------------------------------	---------------------------------------

□ <sub>2</sub> 親 ⑫ シン おや したしい したしい	□ <sub>2</sub> 新 ⑬ シン △あたらしい あたらしい	□ <sub>1</sub> 森 ⑫ シン もり	□ <sub>3</sub> 深 ⑪ シン ふかい ふかまる ふかめる	□ <sub>3</sub> 真 ⑩ シン ま	□ <sub>3</sub> 身 ⑦ シン み	□ <sub>3</sub> 申 ⑤ シン もうす	□ <sub>2</sub> 心 ④ シン こころ	□ <sub>3</sub> 植 ⑫ シヨク うえる うわる	□ <sub>2</sub> 食 ⑨ シヨク (くう) たべる	□ <sub>2</sub> 色 ⑥ シヨク いろ
--	---	--------------------------------------	---	-------------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---	--	---------------------------------------

□ <sub>1</sub> 生 ⑤ セイ △なま はえる はやす (お)う うまれる いける いやす いきう	□ <sub>1</sub> 正 ⑤ セイ ただしい ただし	□ <sub>3</sub> 世 ⑤ セイ よ	せ	□ <sub>2</sub> 数 ⑬ スウ かず かぞえる	□ <sub>1</sub> 水 ④ スイ みず	□ <sub>2</sub> 凶 ⑦ トズ (はかる)	す	□ <sub>1</sub> 人 ② ジン ひと
--	---	-------------------------------------	---	--	--------------------------------------	---	---	--------------------------------------

□ <sub>3</sub> 昔 ⑧ セキ むかし	□ <sub>1</sub> 赤 ⑦ セキ あか あからむ あからむ	□ <sub>1</sub> 石 ⑤ セキ いし	□ <sub>1</sub> 夕 ③ セキ ゆう	□ <sub>3</sub> 整 ⑫ セイ ととのえる	□ <sub>2</sub> 晴 ⑫ セイ はれる	□ <sub>2</sub> 星 ⑨ セイ ほし	□ <sub>1</sub> 青 ⑧ セイ あおい	□ <sub>2</sub> 声 ⑦ セイ (こゑ) こゑ	□ <sub>2</sub> 西 ⑥ セイ にし
---------------------------------------	--	--------------------------------------	--------------------------------------	---	---------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	--	--------------------------------------

□ <sub>1</sub> 早 ⑥ ソウ はやい はやめる	□ <sub>2</sub> 組 ⑪ △ソ くむ	そ	□ <sub>2</sub> 前 ⑨ ゼン まえ	□ <sub>3</sub> 全 ⑥ ゼン すべて	□ <sub>2</sub> 線 ⑫ セン	□ <sub>2</sub> 船 ⑪ セン ふね △ふな	□ <sub>1</sub> 先 ⑥ セン さき	□ <sub>1</sub> 川 ③ セン かわ	□ <sub>1</sub> 千 ③ セン ち	□ <sub>2</sub> 雪 ⑪ セン ゆき	□ <sub>2</sub> 切 ④ セツ きる きる
---	--------------------------------------	---	--------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	---	--------------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------------	--



□ <sub>2</sub> 体 (7) タイ からだ	□ <sub>3</sub> 対 (7) タイ (ツイ)	□ <sub>2</sub> 太 (4) タイ ふと ふと い	□ <sub>2</sub> 多 (6) タイ おおい	た	□ <sub>1</sub> 村 (7) ソク むら	□ <sub>3</sub> 族 (11) ソク	□ <sub>1</sub> 足 (7) ソク あし	□ <sub>3</sub> 想 (13) ソウ (ソウ)	□ <sub>3</sub> 送 (9) ソウ おく	□ <sub>1</sub> 草 (9) ソウ くさ	□ <sub>3</sub> 相 (9) ソウ あい (シヨウ)	□ <sub>2</sub> 走 (7) ソウ はし
---	--	---	---	---	--	-----------------------------------	--	---	--	--	---	--

□ <sub>3</sub> 着 (12) チャク つけ きる	□ <sub>2</sub> 茶 (9) チャ (サ)	□ <sub>1</sub> 竹 (6) チャク たけ	□ <sub>2</sub> 知 (8) チ しる	□ <sub>2</sub> 池 (6) チ いけ	□ <sub>2</sub> 地 (6) ヂチ	ち	□ <sub>1</sub> 男 (7) ダン おとこ	□ <sub>3</sub> 短 (12) タン みじかい	□ <sub>3</sub> 題 (18) ダイ	□ <sub>2</sub> 台 (5) ダイ たい	□ <sub>1</sub> 大 (3) ダイ おお おおい
--	---	---	---------------------------------------	---------------------------------------	----------------------------------	---	---	---	-----------------------------------	--	---

□ <sub>2</sub> 通 (10) ツウ とお とおす	つ	□ <sub>2</sub> 直 (8) チヨク あた あた ち	□ <sub>3</sub> 調 (15) チヨウ しら しらす	□ <sub>2</sub> 朝 (12) チヨウ あさ	□ <sub>2</sub> 鳥 (11) チヨウ とり	□ <sub>2</sub> 長 (8) チヨウ ながい	□ <sub>1</sub> 町 (7) チヨウ まち	□ <sub>3</sub> 柱 (9) チュウ はしら	□ <sub>2</sub> 昼 (9) チュウ ひる	□ <sub>1</sub> 虫 (6) チュウ むし	□ <sub>1</sub> 中 (4) チュウ なか
--	---	--	---	--	--	--	---	--	---	---	---

□ <sub>1</sub> 土 (3) ド ち	□ <sub>3</sub> 都 (11) ツト みやこ	と	□ <sub>2</sub> 電 (13) デン でん	□ <sub>1</sub> 田 (5) デン た	□ <sub>2</sub> 点 (9) テン てん	□ <sub>2</sub> 店 (8) テン みせ	□ <sub>1</sub> 天 (4) テン あま	□ <sub>3</sub> 鉄 (13) テツ	□ <sub>3</sub> 定 (8) テイ さだ め	□ <sub>2</sub> 弟 (7) テイ おとう と	て
--------------------------------------	--	---	---	---------------------------------------	--	--	--	-----------------------------------	---	--	---

□ <sub>2</sub> 読 (14) トク よむ	□ <sub>2</sub> 道 (12) ドウ みち	□ <sub>3</sub> 童 (12) ドウ わらへ	□ <sub>3</sub> 動 (11) ドウ うご かす	□ <sub>2</sub> 同 (6) ドウ おなじ	□ <sub>2</sub> 頭 (16) トウ あたま	□ <sub>2</sub> 答 (12) トウ こたえ	□ <sub>3</sub> 登 (12) トウ のぼる	□ <sub>2</sub> 東 (8) トウ ひがし	□ <sub>2</sub> 当 (6) トウ あたる	□ <sub>2</sub> 冬 (5) トウ ふゆ	□ <sub>2</sub> 刀 (2) トウ かたな
---	---	--	---	---	--	--	--	---	---	--	---

□ <sub>3</sub> 農 (13) ノウ	の	□ <sub>1</sub> 年 (6) ネン とし	ね	□ <sub>1</sub> 入 (2) ニュウ いれる	□ <sub>1</sub> 日 (4) ニチ かひ	□ <sub>2</sub> 肉 (6) ニク	□ <sub>1</sub> 二 (2) ニ ふた	に	□ <sub>2</sub> 南 (9) ナン みなみ	□ <sub>2</sub> 内 (4) ナイ うち	な
-----------------------------------	---	--	---	--	--	----------------------------------	---------------------------------------	---	---	--	---

□ <sub>2</sub> 番 (12) バン	□ <sub>3</sub> 板 (8) ハン いた	□ <sub>3</sub> 坂 (7) ハン さか	□ <sub>2</sub> 半 (5) ハン なかば	□ <sub>3</sub> 発 (9) ハツ (ホツ)	□ <sub>1</sub> 八 (2) ハチ やっ	□ <sub>2</sub> 麦 (7) バク むぎ	□ <sub>1</sub> 白 (5) ハク しろ	□ <sub>2</sub> 買 (12) バイ かう	□ <sub>2</sub> 売 (7) バイ う	□ <sub>2</sub> 馬 (10) バ うま	は
-----------------------------------	--	--	---	--	--	--	--	---	---------------------------------------	--	---

□ <sub>3</sub> 部 ⑪ ブ	□ <sub>3</sub> 負 ⑨ おまける おまかす おま	□ <sub>2</sub> 父 ④ ちち	ふ	□ <sub>3</sub> 品 ⑨ しな	□ <sub>3</sub> 秒 ⑨ ビョウ	□ <sub>3</sub> 表 ⑧ おもて あらわす あらわれる	□ <sub>3</sub> 氷 ⑤ ヒョウ こおり (ひ)	□ <sub>1</sub> 百 ⑥ ヒャク	□ <sub>3</sub> 筆 ⑫ ヒツ ふで	□ <sub>3</sub> 悲 ⑫ かなしい かなしむ	ひ
-------------------------------	--	--------------------------------	---	--------------------------------	---------------------------------	--	---	---------------------------------	--------------------------------------	--	---

□ <sub>3</sub> 返 ⑦ かえす へん	□ <sub>2</sub> 米 ⑥ こめ △マイ △ペイ	□ <sub>3</sub> 平 ⑤ へい ひら たいら	へ	□ <sub>2</sub> 聞 ⑭ きこえる (モン) ぶん	□ <sub>1</sub> 文 ④ ぶん (ふみ) モン(モ)	□ <sub>2</sub> 分 ④ ぶん わか わかる わかれる わかつ	□ <sub>3</sub> 物 ⑧ モノ モツ ブツ	□ <sub>3</sub> 服 ⑧ フク	□ <sub>2</sub> 風 ⑨ かぜ (フ) フウ
---------------------------------------	--	---	---	--	---	--	--	--------------------------------	---

□ <sub>3</sub> 味 ⑧ あじ あじわう み	□ <sub>2</sub> 万 ③ マン (パン)	□ <sub>2</sub> 妹 ⑧ いもうと (マイ)	□ <sub>2</sub> 毎 ⑥ マイ	ま	□ <sub>1</sub> 本 ⑤ ほん △もと	□ <sub>1</sub> 木 ④ モク △こ	□ <sub>2</sub> 北 ⑤ きた △ホク	□ <sub>2</sub> 方 ④ かた ホウ	□ <sub>2</sub> 母 ⑤ はは △ボ	□ <sub>2</sub> 歩 ⑧ あるく (フ) ホ	ほ
---	--	--	--------------------------------	---	---------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---	---

□ <sub>3</sub> 問 ⑪ とん どう もん	□ <sub>2</sub> 門 ⑧ かど もん	□ <sub>1</sub> 目 ⑤ め ま	□ <sub>2</sub> 毛 ④ け モウ	も	□ <sub>3</sub> 面 ⑨ おもて (つら) めん	□ <sub>2</sub> 鳴 ⑭ な なく ならす	□ <sub>2</sub> 明 ⑧ あかり あかる あける あきらむ あからむ あかるい △あかり △あかるい △あける △あきらむ	□ <sub>1</sub> 名 ⑥ な メイ ミョウ	め
--	--------------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------	---	---	--	---	--	---

□ <sub>3</sub> 葉 ⑫ は ヨウ	□ <sub>3</sub> 洋 ⑨ ヨウ	□ <sub>2</sub> 用 ⑤ もちいる ヨウ	□ <sub>3</sub> 予 ④ ヨ	よ	□ <sub>3</sub> 遊 ⑫ あそぶ ユウ	□ <sub>3</sub> 有 ⑥ ある ユウ	□ <sub>2</sub> 友 ④ とも ユウ	□ <sub>3</sub> 油 ⑧ あぶら ユ	□ <sub>3</sub> 由 ⑤ よし ユウ ユイ	ゆ	□ <sub>2</sub> 野 ⑪ のヤ	□ <sub>2</sub> 夜 ⑧ よる ヤ	や
-------------------------------------	--------------------------------	--	-------------------------------	---	---------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--	---	--------------------------------	-------------------------------------	---

□ <sub>1</sub> 林 ⑧ はやし △リン	□ <sub>3</sub> 緑 ⑭ みどり (ロク) リョク	□ <sub>1</sub> 力 ② ちから △リキ	□ <sub>3</sub> 両 ⑥ リョウ	□ <sub>1</sub> 立 ⑤ たつ (リュウ) リツ	□ <sub>2</sub> 理 ⑪ り	□ <sub>2</sub> 里 ⑦ さと △リ	り	□ <sub>3</sub> 落 ⑫ おちる ラク	□ <sub>2</sub> 来 ⑦ くる ライ	ら	□ <sub>2</sub> 曜 ⑱ ヨウ	□ <sub>3</sub> 様 ⑭ さま ヨウ	□ <sub>3</sub> 陽 ⑫ ヨウ
--	--	--	---------------------------------	---	-------------------------------	--------------------------------------	---	---------------------------------------	--------------------------------------	---	--------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------

□ <sub>2</sub> 話 ⑬ はなし ワ	わ	□ <sub>1</sub> 六 ④ むつ むつ むい	□ <sub>3</sub> 路 ⑬ じロ	ろ	□ <sub>3</sub> 練 ⑭ ねる レン	れ
--------------------------------------	---	--	--------------------------------	---	--------------------------------------	---





はんで意見をまとめよう

34 進 11画

進進進進進進  
シン 進行 前進  
すすむ 前に進む  
すすめる 進め方

35 役 7画

役役役役役役  
ヤク (エキ) 役わり 役所

36 他 5画

他他他他他  
ほか 他人 その他 他もの

すがたをかえる大豆

41 豆 7画

豆豆豆豆豆豆  
トウ 豆乳  
ズ 大豆  
まめ 豆まき 黒豆

41 者 8画

者者者者者者  
シヤ 筆者 作者  
もの 人気者

43 育 8画

育育育育育育  
イク 保育園 教育  
そだつ ダイズが育つ  
そだてる 子犬を育てる  
はぐくむ ゆめを育む

43 消 10画

消消消消消消  
シヨウ 消化 消火  
きえる 火が消える  
けす 電気を消す

45 取 8画

取取取取取取  
シュ 取材  
とる 取り出す

46 期 12画

期期期期期期  
キ (ゴ) 期間 時期

47 畑 9画

畑畑畑畑畑畑  
はた はたけ 田畑 畑作  
はたけ 花畑

56 福 13画

福福福福福福  
フク 幸福

ことわざ・故事成語

57 苦 8画

苦苦苦苦苦苦  
ク 苦勞 苦心  
くるしい 暑苦しい  
くるしむ 病気で苦しむ  
くるしめる心を苦しめる  
にがい 苦いコーヒー  
にがる 苦り切った顔

59 倍 10画

倍倍倍倍倍倍  
バイ 二倍 何倍

59 談 15画

談談談談談談  
ダン 相談 会談

漢字の意味

60 鼻 14画

鼻鼻鼻鼻鼻鼻  
ビ (ビ) 鼻歌 鼻血

60 齒 12画

齒齒齒齒齒齒  
シ 齒科  
は きれいな歯

61 階 12画

階階階階階階  
カイ 二階 階下

61 央 5画

央央央央央  
オウ 中央

61 旅 10画

旅旅旅旅旅旅  
リョ 旅行 旅館  
たび 旅人

61 委 8画

委委委委委委  
イ 委員会  
ゆだねる 代表者に委ねる

61 級 9画

級級級級級級  
キユウ 学級 上級生

61 昭 9画

昭昭昭昭昭昭  
シヨウ 昭和

61 和 8画

和和和和和和  
ワ (オ) 昭和 平和

61 業 13画

業業業業業業  
ギヨウ (ゴウ) 作業 農業  
(わざ)

61 駅 14画

駅駅駅駅駅駅  
エキ 駅前

61 皮 5画

皮皮皮皮皮  
ヒ 表皮 皮肉  
かわ 皮むき

61 皿 5画

皿口皿皿皿  
さら 皿あらい

三年とうげ

66 息 10画

息息息息息息息息  
ソク 消息 安息  
いき ため息 鼻息

66 美 9画

美美美美美美美  
ビ うつくしい美しい花  
美声 美化

68 転 11画

転転転転転転転  
テ 回転 転校  
ころがる 球が転がる  
ころげる 転げ落ちる  
ころがす 球を転がす  
ころぶ 山道で転ぶ

70 病 10画

病病病病病病病  
ピヨウ 病気 重病  
(エイ) (やむ)  
やまい 病は気から

70 医 7画

医医医医医医医  
イ 医者 医学

70 薬 16画

薬薬薬薬薬薬薬  
ヤク 薬品 薬局  
くすり 目薬 かせ薬

70 飲 12画

飲飲飲飲飲飲飲  
イン 飲食  
のむ 薬を飲む

70 重 9画

重重重重重重重  
ジュウ 体重 重大  
チヨウ 軽重 貴重  
え 三重県  
おもい うてが重い  
かさねる 血を重ねる  
かさなる 用事が重なる

70 配 10画

配配配配配配配  
ハイ 心配 気配  
くばる 新聞を配る

73 度 9画

度度度度度度度  
ド 一度 今度  
(タク) (たび)

76 幸 8画

幸幸幸幸幸幸幸  
コウ 幸福  
さいわい 幸い元気だ  
(さち) しあわせ 幸せにくらす

78 始 8画

始始始始始始始  
シ 開始 年始  
はじめる 話し始める  
はじまる 工事が始まる

たから島のぼうけん

81 島 10画

島島島島島島島  
トウ 半島 列島  
しま たから島

81 待 9画

待待待待待待待  
タイ 期待  
まつ 待ち受ける

81 受 8画

受受受受受受受  
ジュ 受信  
うける 待ち受ける  
うかる 試験に受かる

カンジーはかせの音訓かるた

92 代 5画

代代代代代  
タイ 時代 代表  
かわる 当番を代わる  
かえる 当番を代える  
よ 千代紙  
(しろ)

92 曲 6画

曲曲曲曲曲曲曲  
キョク 曲線 作曲  
まがる 右に曲がる  
まげる こしを曲げる

92 投 7画

投投投投投投投  
トウ 投手 投書  
なげる 球を投げる

92 炭 9画

炭炭炭炭炭炭炭  
タン 石炭  
すみ 炭火 炭やき

92 庫 10画

庫庫庫庫庫庫庫  
コ 車庫 金庫

92 羊 6画

羊羊羊羊羊羊羊  
ヨウ 羊毛  
ひつじ 羊を数える

92 勝 12画

勝勝勝勝勝勝  
シヨウ 勝負  
かつ 試合に勝つ  
(まさる)

92 宿 11画

宿宿宿宿宿宿  
シユク 宿題 合宿  
やど 宿屋  
やどる 雨宿り  
やどす 命を宿す

92 丁 2画

丁丁  
チヨウ 一丁 五丁目  
(テイ)

93 帳 11画

帳帳帳帳帳帳  
チヨウ 日記帳 手帳

93 宮 10画

宮宮宮宮宮宮  
キユウ 宮でん 王宮  
(グウ)  
(ク)

93 院 10画

院院院院院院  
イン 寺院 病院

93 笛 11画

笛笛笛笛笛笛  
テキ 汽笛  
ふえ 口笛 たて笛

93 礼 5画

礼礼礼礼礼  
レイ お礼 失礼  
(ライ)

ありの行列

95 研 9画

研研研研研研  
ケン 研究  
(トク)

95 究 7画

究究究究究究  
キユウ 研究  
(きわめる)

96 庭 10画

庭庭庭庭庭庭  
テイ 校庭 家庭  
にわ うら庭

つたわる言葉で表そう

106 等 12画

等等等等等等  
トウ 上等 等分  
ひとしい 長さが等しい

107 湖 12画

湖湖湖湖湖湖  
コ 湖上  
みずうみ 大きな湖

108 注 8画

注注注注注注  
チュウ 注意 注文  
そそぐ お茶を注ぐ

これがわたしの  
お気に入り

112 反 4画

反反反反  
ハン 反対 反発  
(ホン)  
(タン)  
そる 板が反る  
そらす むねを反らす

コンピュータの  
ローマ字入力

114 波 8画

波波波波波波  
ハ 電波  
なみ 波が高い

114 勉 10画

勉勉勉勉勉勉  
ベン 勉強 勉学

114 放 8画

放放放放放放  
ホウ 放送 放出  
はなす 魚を放す  
はなつ 矢を放つ  
はなれる 放れ馬  
ほうる 放り投げる

115 打 5画

打打打打打  
ダ 打球 打楽器  
うつ ボールを打つ

わたしたちの学校じまん

118 速 10画

速速速速速速  
ソク 速度 時速  
はやい 足が速い  
はやめる 速度を速める  
はやまる 速度が速まる  
(すみやか)

モチモチの木

126 神 9画

神神神神神神  
シン 神話  
ジン 神社  
かみ 神様  
(かん)  
(こう)

129 箱 15画

箱箱箱箱箱箱  
はこ 薬箱 筆箱

132 湯 12画

湯湯湯湯湯湯  
トウ 熱湯  
ゆ 湯をわかす





# 言葉のたから箱ばこ

## 考えや気持ちをつたえる言葉

人物や出来事についてせつめいするときや、自分の考えや気持ちを書いたり話したりするとき、役立てましょう。

### 人物を表す言葉

- すなお
- りこう
- いさましい
- いばる
- おくびよう
- 心やさしい
- 感じがよい
- 一生けんめい
- 注意深い
- うっかり

### 物や事からの様子を 表す言葉

- 十分
- 分かりやすい
- 美しい
- 分かりにくい
- 完全
- を上回る
- こうひよう
- どっしりした
- 重苦しい
- とくべつ

### 考え方を表す言葉

- 理由は——
- いっぽう——は
- 大きく分けると
- に当てはまる
- たとえば——
- このように——

### 気持ちを表す言葉

- 元気づけられる
- ありがたい
- かんしゃ
- かんげき
- じまん
- じしん
- てれる
- てれくさい
- 意外

- 頭にくる
- 落ち着かない
- 心細い
- つらい
- はつとする
- なごむ
- 目をうたがう
- うちようてん
- もの足りない

- とくいになる
- 反省する
- ぎよつとする
- 気落ちする
- くたびれる
- やるせない
- 切ない

### 自分の使い方を見つけよう

「言葉のたから箱」をどのように使っているか、みんなで出し合ってみましょう。

〈れい〉

- 使った言葉にしるしをつける。
- 国語辞典で意味を調べた言葉にしるしをつける。
- どんな文で使ったのかを書きこむ。
- 言葉をつけくわえる。 など
- 友だちの使い方をさんこうにして、くふうして使いましょう。



ここにある言葉をきっかけに、自分の言葉をどんどん広げよう。

国語の学習で、よく使われる言葉です。意味や使い方をたしかめて、学習に役立てましょう。

会話文・地の文

かぎ（「」）でしめしている登場人物の言葉を会話文といい、他のところを地の文という。物語では、主に地の文によって話が進む。

〈れい〉（「三年とうげ」72ページ）

「どうすればなおるんじや。」—— 会話文  
おじいさんは、ふとんから顔を出しました。—— 地の文

会話文では、登場人物の考えや思いがそのまま表れていることが多い。

地の文では、登場人物の様子や行動を表しているところに、その登場人物のせいかくや気持ちが表れていることがある。

26ページ

司会

話し合いなどを、目的や話題に合わせて進行すること。また、それを行う人。

司会をしていない人も、自分が司会だったらどう進めるかを考えながらさんかすると、話し合いが進みやすくなる。

35ページ

奥付

その本の書名や作者・筆者名、発行年、発行者などを記したページ、またはその部分。ふつう、本などの終わりのほうにある。本などで調べて分かったことは、奥付に書かれている書名などといっしょにメモしておく、後からたしかめたり、引用したりするときに役立つ。

50ページ

語り手

物語の地の文を語る人。人物の行動や気持ち、場面の様子などを語りながら、話を進めていく。

「モチモチの木」のように、語り手が自分の考えや気持ちを語る場合もある。語り手がどのような立場で、どの登場人物の気持ちによりそっているかをたしかめると、その物語の世界をいっそう深く読むことができる。

134ページ

これまでに学んだ言葉

引用

他の人が言ったことや、本などに書かれていることを、話や文章の中で使うこと。

- ① かぎ（「」）をつけるなどして、他とくべつする。
- ② 元の言葉や文を、そのままぬき出す。
- ③ どこから引用したのかをしめす。

キャッチコピー

相手を引きつけるようにくふうされた、短い言葉。

句読点

文の終わりに打つ句点（。）と、文の中の意味の切れ目に打つ読点（、）とを合わせた言葉。

組み立て

「はじめ」「中」「終わり」など、文章や話などが、どのようなまとまりとじゅんじよでできているかということ。

さくいん

図鑑などで、その本の中にある言葉や物事が、どのページにあるかを五十音順などでしめしてあるもの。

段落

文章を組み立てている、事がらごとのないようのまとまり。はじめを一字下げて表す。

問い（問いの文）

せつめいする文章などで、これから何を書くかを、読み手に問いかけるかたちで表した文のこと。

場面

物語の中にあるいくつかのまとまり。時間や場所、登場人物の行動などでひとまとまりになっていることが多い。

連

一行空きなどを入れて区切られた、詩の中のそれぞれのまとまり。



編集委員

甲斐陸朗 元国立国語研究所所長  
高木まさき 横浜国立大学大学院教授

青山由紀 筑波大学附属小学校教諭  
赤木雅宣 ノートルダム清心女子大学教授

阿辻哲次 京都大学名誉教授  
阿部昇 秋田大学特別教授

池上彰 ジャーナリスト  
作家

石井睦美 国立国語研究所教授  
石黒圭 筑紫女学園大学教授

稲田八穂 筑紫女学園大学教授

井上一郎 前京都女子大学教授

浮田真弓 岡山大学教授

内田伸子 お茶の水女子大学名誉教授

岡田博元 お茶の水女子大学附属小学校教諭

甲斐雄一郎 筑波大学教授

鹿毛雅治 慶應義塾大学教授

桂聖 筑波大学附属小学校教諭

茅野政徳 山梨大学教職大学院准教授

工藤直子 作家

鴻上尚史 作家・演出家

輿水かおり 前玉川大学客員教授

佐渡島紗織 早稲田大学教授

達富洋二 佐賀大学教授

田中洋一 東京女子体育大学教授

棚橋尚子 奈良教育大学教授

土山和久 大阪教育大学教授

永池啓子 横浜国立大学講師

中川一史 放送大学教授

中川李枝子 作家

中村桂子 生命誌研究館館長

長谷浩也 環太平洋大学教授

蜂飼耳 詩人・作家

原田義則 鹿児島大学大学院准教授

藤森裕治 信州大学術研究院教授

細川太輔 東京学芸大学教職大学院准教授

三浦登志一 山形大学術研究院教授

邑上裕子 明星大学客員教授

森篤嗣 京都外国語大学教授

森山卓郎 早稲田大学教授

吉永幸司 前京都女子大学教授

カラーユニバーサルデザインに関する校閲

市原恭代 工学院大学准教授

NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)理事

特別支援教育に関する校閲

佐島毅 筑波大学准教授

学習のユニバーサルデザインに関する校閲

小貫悟 明星大学教授

光村図書出版株式会社編集部

国語 三 下 あおぞら

38光村 国語308 小学校国語科用

年月 日印刷  
年月 日発行

(平成三十一年二月二十五日検定済)

定価 文部科学大臣が認可し官報で告示した定価  
(右記の定価は、各教科書取次供給所に表示  
します。)

この教科書にもとづくワークブック・解説書、  
ならびにこれに類するものの無断発行を禁じます。

ISBN978-4-8138-0069-9

著作者 甲斐陸朗 ほか四十三名別記

発行者 光村図書出版株式会社

代表者 小泉 茂

東京都品川区上大崎二十九

印刷者

協和オフセット印刷株式会社

代表者 鴨 三津夫

東京都港区浜松町一三二一

発行所 光村図書出版株式会社

東京都品川区上大崎二十九

電話 (〇三) 三四九三二二二一 (代表)

アート・ディレクション／デザイン 図工室(坂 啓典)／近田宏生／堀ノ内達也)  
表紙絵 大野八生 とびら詩 まど・みちお とびら絵 原田マサミ  
さし絵 浅倉田美子／アトリエ秋山／おうみかずひろ／神山博光／川口澄子／川崎由紀／川村 易／河原崎秀之／たかおかゆみこ  
タラジロウ／papakaori／Hama-House／原田マサミ  
書き文字 樋口咲子  
写真 アフロ／アマナイメーجز／高宮青志／長岡博史／農山漁村文化協会／ポプラ社／水町和昭



ISBN978-4-8138-0069-9  
C4381 ¥00000E



保護者の皆様へ

この教科書は、これからの社会を生きる子どもたちが、言葉に出会う喜びや、人とつながる楽しさを実感しながら、確かな「言葉の力」を身につけることを願って編集したものです。ご家庭においても、この教科書を子どもたちと語り合うきっかけとしてご活用ください。

この教科書は、次のような配慮や工夫をしています。

- カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。
- 児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。
- 単元名や見出しには、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。
- 環境に配慮した紙、植物油インキを使用しています。

UD  
FONT



この教科書では、学習の参考となる動画などの資料を小社ウェブサイトを用意し、その箇所には二次元コードを示しています。機種やインターネット環境等によってはアクセスできないことがあります。また、通信料が発生する場合があります。読み取れない場合は、下記のURLをご参照ください。



<https://m-manabi.jp/20/qr/k3g/>

この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。



光村図書

三年

組

